邦人顳顬骨乳嘴部ニ就テ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 岩田, 惣七 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/31133

十全會雜誌　第三十四卷第五號（第二百八十一號）　昭和四年五月一日發行

原著

邦人顳顬骨ノ研究

顳顬骨乳嘴部ニ就テ

（一月二十四日受附）

金澤醫科大學解剖學教室（岡本教授指導）
專攻生　岩田惣七

目次

緒言
第一章　乳嘴孔或ハ吻合孔（Foramen mastoideum）ニ就テ。
第一節　乳嘴孔ニ就テノ主要文獻。
第二節　研究材料並ニ研究方法。
第一項　研究材料。
第二項　研究方法。
第三節　乳嘴孔ノ數及ビ大サ。
第一項　乳嘴孔ノ數。
第二項　乳嘴孔ノ大サ。
第四節　乳嘴孔ノ位置的關係。
第一項　後頭乳嘴縫合トノ關係。
第二項　Ectoconchion-Inion 線トノ關係。
第三項　Porion ヨリ Foramen mastoideum ノ距離。
第四項　外聽孔後緣中央部（Hp.）ヨリ乳嘴孔ニ至ル距離。
第五項　乳嘴突起尖端（Sm.）ヨリ乳嘴孔ニ至ル距離。

第六項　乳嘴截痕最終端(Im.)ヨリ乳嘴孔ニ至ル距離、並ニ其ノ方向。
第七項　外聽孔後緣中央部(Hp.)ヨリ乳頭突起尖端ニ至ル距離。
第五節　Porion, 外聽孔後緣中央部(Hp.), 乳嘴突起尖端(Sm.)ヨリ乳嘴孔ニ至ル距離並ニ外聽孔後緣中央部ヨリ乳嘴突起尖端ニ至ル距離ノ相互關係。
第二章　後頭動脈溝(Sulcus arteriae occipitalis)ニ就テ。
第三章　總括
引用書目

緒言

抑々顳顬骨乳嘴部ハ顳顬鱗ノ下方、外聽孔ノ後下方ニ位シ、前內方ハ顳顬骨岩樣部ニ屬スル錐體部中頭骨側面ニ現ハレタル一小部ヲ指スニ過ギザレドモ耳科外科學上極メテ重要ナル部位ヲ占ムルヲ以テ之レガ耳科外科的解剖ノ研究ハ勿論、人類學的並ニ人種解剖學的研究亦枚擧ニ遑アラズ。

本邦人頭蓋ニ於ケル乳嘴部ノ研究ハ菊池、岩田(一)、宮本、犬丸氏等ノ東京、畿內並ニ九州地方人頭蓋ヲ材料トセル報告アルノミニシテ北陸地方頭蓋ニ於ケル研究ハ予寡聞未ダ之レヲ見ズ。

予ハ北陸地方頭蓋ニ於ケル顳顬骨ノ研究ニ從事シ嚮ニ顳顬鱗ニ就テノ研究ヲ報告セリ。本論文ニ於テハ顳顬骨乳嘴部ニ就キ觀察並ニ計測セル成績ヲ報告セントス。

第一章　乳嘴孔(Foramen mastoideum)或ハ吻合孔ニ就テ

乳嘴孔ハ後頭靜脈並ニ橫竇ヲ連絡セル靜脈管及ビ後頭動脈ヨリ分枝シ硬腦膜ニ分布スベキ後硬腦動脈、並ニ神經枝等ノ出入スベキ骨孔ニシテ頭蓋ニ於ケル幾多ノ吻合孔中最大ナルモノナリ。今成書(例ヘバ Schültze, Topographische Anatomie. 3. Aufl. 1922. Fig. 54)ニ記スル所ヲ見ルニ甚ダ大ナル Emissarium mastoideum ヲ有スルコトアルヲ記セ

リ、カヽル場合多クハ頸靜脈孔ハ縮小シS字狀竇ハ大ナル Emissarium ニ依リテ頭蓋外靜脈系ト吻合スルモノヽ如シ。尤モ斯クノ如キ例ハ頸靜脈孔ノ佝僂病性縮小ニヨリ代償的ニ吻合孔擴大セルモノナラント云フ。其ノ原因果シテカヽル病的機轉ニノミ依ルモノナリヤ否ヤハ明言スルコトヲ得ズ。蓋シ予時ニカヽル病的徵候ヲ見ザル頭蓋ニ於テモ猶大ナル吻合孔ヲ有スルモノアルヲ見レバナリ。

乳嘴孔ノ耳科學上所謂頭蓋內合併症 (Intracraniäre Komplikationen) ノ診斷並ニ手術ニ際シ甚ダ緊要ナルハ諸學者ノ等シク認ムル處ニシテ今更喋々スルヲ要セザルモ亦一般外科學上乳嘴突起部後方即チ後頭蓋ニ於ケル軟部切開ニ際シ愼重ナル注意ヲ必要トスルモノナリ。若シ夫レ不幸ニシテ吻合枝ヲ損傷センカ厭忌スベキ多量ノ靜脈出血ヲ招來シ之レヲ結紮スルコト極メテ困難ニシテ爲ニ手術ヲ中止スルノ止ムナキニ至リ又ハ不幸ナル轉機ヲ招クモ計リ難シ。幸ニシテ之レヲ止血シ得タル場合ト雖モ止血後栓塞或ハ靜脈周圍炎ヲ來シ橫竇炎或ハ腦膜炎ノ原因ヲナスニ至ルコト尠シトセズ。斯クノ如ク乳嘴孔ハ臨床上甚ダ重要ナルヲ以テ該孔外口ノ解剖學的研究ハ既ニ幾多ノ先進諸學者ニ依リテ行ハレタリト雖モ之レガ位置的關係ヲ知悉スルハ極メテ緊要ニシテ人種解剖學的研究亦興味アルモノナリト信ズ。

第一節　乳嘴孔ニ就テノ主要文獻

Henle ハ既ニ一八七一年彼ノ著書 (Lehrbuch der systematischen Anatomie des Menschen, 3. Aufl. Bd. 1) ニ於テ乳嘴孔ノ大サ並ニ位置ニ就キ記載セリ。即チ吻合孔ハ顳顬鱗ノ上緣或ハ後緣ニ近ク廣狹不定ナル一個或ハ數個ノ骨孔ニシテ斜ニ前內下方ニ走行シ內孔ハ直チニ橫竇溝ノ後緣ニ開口スルモノニシテ顳顬骨乳嘴部及ビ後頭骨ヲ以テ相適合スル處ノ圈缺ノ關合ニ依リテ生ズルモノナリト。而シテ其ノ形狀多クハ圓形ニシテ直徑一—三 mm ナルヲ常トシ該孔ヲ通ジ動脈分枝ハ硬腦膜ト、橫竇ハ頭蓋外靜脈系ト互ニ吻合ヲ營ムモノナリト。一八七三年 Zuckerkandl ハ橫竇並ニ頸靜脈ノ研究ニ際シ同時ニ乳嘴孔ニ就キテモ研究シ該孔ハ橫竇並ニ頸靜脈ノ發育ニ對シ重大ナル關係ヲ有シ臨床上又重要ナルヲ說ケリ。Bezold ハ殆ンド Zuckerkandl ト時ヲ同ジフシ乳嘴孔外口ノ解剖學的部位ヲ決定センガ爲ニ鼓乳破裂及ビ

乳嘴突起尖端部ヨリノ距離ヲ計測シ成人頭蓋ニ在リテハ前者ハ平均三〇・八mm、後者ハ平均三〇・九mmニシテ七歳ノ小兒ニ於ケル計測成績ハ右側三〇・三六mm、左側二九・二四mmナリキト云フ。而シテ吻合孔内口ハS字狀溝後緣ニ於テ同溝全長ノ略中央或ハ僅カニ下方ニ位シ之レヨリ後上方ニ走リ乳嘴突起後方ニ於テ常ニ乳嘴後頭縫合ニ開口シ其ノ發育强度ナルモノニアリテハS字狀溝ニ直走セルモノ存スト。

超エテ一八七五年 Rüdinger ハ一〇〇個ノ顳顬骨ニ就キ嚮ニ Zuckerkandl ガ行ヘシト同樣ナル研究ヲナシ、Bergmann（一八八四年）ハ該孔ハ腦膿瘍病竈局處診斷上甚ダ重要ナルヲ說キ膿瘍ノ小腦或ハ顳顬葉ニ存スルヤノ疑問ニ際シ乳嘴後頭縫合部ヲ露出シ該部又ハ「アステリオン」(Asterion)ノ前及ビ下方即チ三角縫合、顱頂乳頭縫合、後頭乳頭縫合ノ相合致セル部圍ニ近ク存スル靜脈孔ヨリ一滴ノ膿汁タリトモ排出セラルヽヲ見バ膿瘍ハ小腦ニ存スルモノナリトノ確診ヲ得ベシト。之レニ遲ルヽコト四年即チ一八九八年 Trautmann モ亦乳嘴孔外口ガ外科的手術特ニ後頭蓋窩ノ手術ニ際シ緊要ナルヲ說キ該孔外口ハ乳嘴突起後緣上1/3ノ下緣、其ノ後方一cmノ處ニアリ。然レドモ常ニ一定ナルモノニアラズシテ大サモ亦帽針頭大ヨリ蠶豆大ニ亙リ時ニ直徑一cmヲ超ユルモノアリ。其ノ數ハ一—五個ノ間ニアリテ吻合孔ノ走行ハ外上方ヨリ内下方ニ向ヒS字狀竇内緣稀ニハ其ノ内方ニ開口スルモノアレドモ多クハS字狀溝ノ下行部ニ存シ時ニ水平位ニ存スルモノアルヲ見ルト云フ。

Gegenbaur（一八八八年）ハ乳嘴孔ノ位置ニ就キ該孔外口ハ乳嘴後頭縫合部ニ於テ通常乳嘴突起部ノ後部ニ當リ存スルコト多ク、内口ハ横竇溝ノ連續部ニ開口シ時トシテ乳嘴部ニ或ハ後頭骨上ニ存スルモノアリト。

一八九九年岡田博士ハ伯林 Königl. Charité 耳鼻科臨床ニ於テ Trautmann 教授指導ノ下ニ Trautmann 及ビ Bezold 等ノ計測方法ニ從ヒ精細ナル觀察並ニ計測結果ヲ發表セリ。即チ氏ノ報告ニ依レバ吻合孔外口ノ位置ハ外背（Äusserer Augenwinkel）ヨリ外後頭結節ニ亙ル一線ノ近圍ニシテ外聽道後壁中央部（Mitte der hinteren Umrandung des Porus acusticus externus）ヨリ成人ニ在リテハ三〇mm、小兒ニ在リテハ二五mmノ距離ニシテ乳嘴突起後緣ノ後方五—一〇mm

ノ部位ニ在リ。而シテ又乳嘴突起尖端部ヨリハ成人三〇mm、小兒二〇mmナリト云フ。該孔外口ノ數ハ兩側共ニ一個ヲ有スルモノ最モ多ク、二個或ハ全然缺如スルモノ之レニ亞ギ三—四個ヲ有スルモノハ甚ダ稀ナリ。其ノ大サハ微細ナル一點ヨリ直徑一cmニ及ブ大ナルモノアリ。而シテ吻合孔ノ小ナルモノ或ハ全然缺如スルモノハ一般ニ左側ニ多ク右側ハ此レニ反シ一般ニ大ナルモノアルヲ見ルト。

續イテ一九〇一年 Meckel ハ乳嘴孔甚ダ大ニシテ爲ニ頸靜脈ノ一部或ハ全部ヲ代償セルモノアルヲ報告シ、Laidlow (一九〇三年)ハ埃及人頭蓋ニ於テ該孔大ニシテ頸靜脈窩ノ全ク存在セザルモノアルヲ見、Le Double (一九〇八年)ハ二〇〇個ノ頭蓋骨中兩側共ニ直徑二〇mmヲ算スル乳嘴孔ノ一例ヲ報告シ且ツ一側ニ三個ヲ有スルモノ三例ヲ發見シ、內二例ハ偏側ノミニシテ他ノ一例ハ兩側ニ存スルモノアルヲ見タリト。斯クノ如ク大ナル乳嘴孔ノ時ニ存在スルコトハ既ニ幾多ノ著書ニ於テモ記載セラルレドモ Schülze 等ハ佝僂病性病變ヲ有スルモノニ見ルコト多シト。(前出)

一九〇八年金杉博士モ亦四〇〇〇個ノ歐洲人頭蓋ヲ使用シ乳嘴部ニ於ケル局處的並ニ外科的解剖學ノ研究ニ從事シ乳嘴孔ニ就キテモ詳細ニ亙リ計測並ニ觀察ヲ行ヘリ。即チ乳嘴孔ノ數ハ一—四個ノ間ニアリテ兩側各一孔ヲ有スルモノ最モ多ク總數ノ五〇·二%ヲ占メ二個、三個、四個ト數ヲ增ス例ハ順次減少ス。而シテ該孔ノ兩側共ニ全然缺如スルモノ四四一例(一一·〇三%)ニ於テ認メタリ。其ノ大サハ普通左側ハ大ナルモノ多キモ右側ニ於テ高サ二六mm、廣サ一二mmヲ有スル大ナル吻合孔ニシテ同側頸靜脈異常ニ狹小ナル一例ヲ發見セリト。而シテ該孔外口ノ位置ハ乳嘴後頭縫合部ニ存スルモノ七二·四三%、乳嘴部ニ存スルモノ二二·二%、後頭骨上ニ存スルモノ五·一三%ニシテ後頭乳嘴縫合部ニ存スルモノ最モ多ク乳嘴突起尖端ヨリ平均三五·五mm(一九·〇—五二·〇mm)ノ距離ニ存セリト云フ。Oertel(一九二二年)ハ乳嘴孔外口ノ位置ニ關シ該孔ハ外聽孔ノ後方約二橫指ノ部位ニ存スト稱シ、A. H. Chealte,(一九二六年)ハ一五〇〇個ノ頭蓋中發育著シク强度ナル結果頸靜脈溝ハ著シク小ニシテ全ク頸靜脈窩ヲ缺如セルモノ三例ヲ見タリト報告セリ。

之等諸學者ノ他支那人或ハ樺太アイヌ人ニ就テノ乳嘴孔ニ關シテハ森川、平井兩氏ノ記載アリ。森川氏ハ支那成人頭蓋一一四個ニ就キ該吻合孔外口ノ位置ハ乳嘴後頭縫合ノ前方ニ存スルモノ最多數ニシテ全數ノ五九・六九％ヲ占メ後頭乳嘴縫合線ニ一致スルモノ三・九五％、縫合線ノ後方即チ後頭骨上ニ存スルモノハ七・四六％、顱頂骨上ニ存スルモノ〇・四四％ニシテ乳嘴突起尖端ヨリノ平均距離三〇・五四mm、外聽道棘ヨリ三三・一五mmナル結果ヲ得タリト。平井氏ノ樺太アイヌ人ニ於ケル成績ハ乳嘴孔外口ノ兩側ニ存在スルモノ五一・五九％、偏側ニノミ存スルモノ二七・三％ナルモ全然缺如セルモノ比較的多ク二一・二％ヲ算セリト云フ。

本邦人頭蓋ニ於ケル乳嘴孔ノ研究ハ比較的尠ク僅カニ菊地、犬丸氏等アルノミ。菊地氏ハ明治四十一年岡田博士指導ノ下ニ五〇個ノ東京地方頭蓋ニ就キ精密ナル耳科外科的解剖學ノ研究ヲ遂ゲ大イニ資スル所アリ、犬丸氏ハ九州地方頭蓋六〇個ヲ材料トシ乳嘴孔ノ研究ヲ行ヒタリ。

之等諸氏ノ研究成績ノ詳細ハ後條記載スベキ各項中ニ於テ予ノ成績ト比較記述スル所アラントス。

第二節　研究材料並ニ研究方法

第一項　研究材料

研究材料ハ本研究第一回報告(顳顬鱗ニ就テ)ニ於テ使用セルモノト全ク同一ナル金澤醫科大學解剖學教室所藏晒製頭蓋總數四一三個(三歳—九二歳)ニシテ其ノ性的內譯次ノ如シ。

	性別	調査數	總數
成人頭蓋	♂	241	403
	♀	162	
小兒頭蓋	♂	3	10
	♀	7	

第二項　研究方法

予ハ本調査ニ當リ其ノ全般ニ亙リテ可成的精確ヲ期シタリト雖モ特ニ計測ニ際シテハ先ヅ被檢頭蓋ヲ鈴木氏頭蓋支持器(島津製作ノモノ)ニ保持シ後述スベキ外皆—外後頭結節線(Ectoconchion-Inion Linie)ハ Lissauerscher Perigraph ヲ模セル自家考案ニナル描周器ヲ使用シ頭蓋骨面ニ現ハシ、二點間ノ距離ハ Martin氏「コンパス」ヲ用ヒテ計測セリ。

乳嘴孔外口ノ位置決定ニ對シテ行ハレタル計測方法及ビ計測部位ハ諸學者ニヨリ甚ダ區々ニシテ其ノ數多シト雖モ予ハ人種解剖學的考察ニ際シ比較對照ニ精確ヲ期サンガ爲ニ最モ屢々用ヒラレタル計測部位ニ準據シ計測ヲ行ヒ同時ニ二三計測線ニ對スル相互關係ニ就キテモ考察セリ。

予ノ行ヒタル計測部位ハ次ノ如シ。

一、外皆(Äusserer Augenwinkel)即チ Ectoconchion(Ec.)ト「イニオン」(In)トヲ結ブ Ectoconchion-inion-linie(Ec-In)ニ對シ乳嘴孔外口上緣中央部ヨリ下セル垂線ノ距離。

二、外聽孔上緣(oberer Rand des Porus scusticus externus)即チ「ポリオン」(Po)ヨリ乳嘴孔外口ニ引ケル直線ノ最短距離(Po-Fm)。

三、外聽孔後緣中央部(die Mitte der hinteren Umrandung des Porus acusticus externus-(Hp))ヨリ乳嘴孔外口(Fm)ニ至ル最短距離(Hp.-Fm.)。

四、乳嘴突起尖端(die Spitze des Proc. mastoideus.-(Sm))ヨリ該孔外口ニ至ル最短距離(Sm.-Fm.)。

五、乳嘴截痕最終端(die Endeste Partie der Incisura mastoidea-(Im))ヨリ同孔外口ニ至ル最短距離(Im.-Fm.)。

六、外聽孔後緣中央部ヨリ乳嘴突起尖端ニ至ル距離(Hp.-Sm.)。

以上ノ他乳嘴孔外口ノ後頭乳嘴縫合トノ關係、乳嘴截痕最終端及ビ乳嘴孔外口連結線(Im.-Fm.)ノ方向、該孔ノ數及ビ大サニ就キ精細ナル觀察ヲ行ヘリ。大サニ就テハ予ハ帽針頭大(微細ヲ含ム)、粟粒大、半米粒大、米粒大、小豆大及

ビ其レ以上ヲ含ム）ノ五種ニ類別シ、大サノ計測ハ半米粒大以上ノモノ、ミニ就キ其ノ長徑(Vertikaler Durchmesser)、並ニ短徑(Horizontaler Durchmesser)ヲ計測シ單位ハ多クノ場合粍(mm)ヲ以テ表ハシ時ニ比較對照ニ便ニシテ且ツ了解シ易キ場合ハ糎(cm)ヲ用ヒタリ。

而シテ同一側ニ於テ二個以上ノ乳嘴孔ヲ有スルモノニアリテハ先進諸家ニ準據シ其ノ主ナルモノ一個ニ就キテノミ觀察並ニ計測ヲ行ヒタルモノニシテ他ノ小ナル副孔ハ所々ニ散在シ其ノ部位一定セズ無下ニ繁雜ヲ來ス畏レアルト解剖學上並ニ臨床學上重要ナラザルヲ以テ省略セリ。

第三節　乳嘴孔外口ノ數及ビ大サ

第一項　乳嘴孔外口ノ數

乳嘴孔外口ノ數ハ一—四個ノ間ニアリテ兩側共ニ一個ヲ有スルモノ最モ多ク四四二例(五四%)ニシテ二個ヲ有スルモノ之レニ次ギ二四八例(三〇%)、該孔ノ全然缺如セルモノ九〇例(一〇·九%)、三個ヲ有スルモノ三九例(四·七%)ノ比ニ遞減シ四個ヲ有スルモノハ三例(〇·四%)ニシテ左側ニ於テノミ之レヲ認メタリ。

之等乳嘴孔外口數ノ兩側並ニ兩性別關係ハ第一表ニ示スガ如ク一個ヲ有スルモノハ兩側兩性共ニ最多數ヲ占ムルト雖モ一般ニ兩側共ニ女性ニ多ク左右側別關係ニ於テハ特記スベキ差異ヲ認ムルコトナシ。

第一表　乳嘴孔ノ左右男女的關係

個數	右側 ♂＋♀	右側 ♂	右側 ♀	左側 ♂＋♀	左側 ♂	左側 ♀
1	222(53.8%)	125(51.23%)	97(57.40%)	224(54.2%)	128(52.46%)	96(56.80%)
2	136(32.9%)	87(35.66%)	49(28.99%)	112(27.1%)	65(26.64%)	47(27.81%)
3	20(4.3%)	13(5.33%)	7(4.13%)	19(4.6%)	16(6.56%)	3(1.77%)
4	0	0	0	3(0.4%)	2(0.82%)	1(0.59%)

二個ヲ有スルモノハ一般ニ男性ニ多ク存スルヲ見ルモ左側ニアリテハ反ッテ女性ニ稍多キヲ見ル。

而シテ男性ニアリテハ右側ハ左側ニ比シ甚ダ多キモ女性ニアリテハ兩側間ニ大ナル差異アルヲ見ズ。

三個ヲ有スルモノモ同樣兩側共ニ男性ニ多キモ左側ハ右側ニ比シ稍多ク女性ハ之レニ反シ右側ニ多キヲ示シ四個ヲ有スルモノハ左側ニ於テノミ存シ男性ニ稍多キヲ見ル。

之レヲ要スルニ乳嘴孔外口ノ二個以上存在スルモノハ男性ニ多ク而シテ右側ニ多キガ如シ。該孔外口ノ全然缺如セルモノハ左側ハ右側ニ比シ四・八%多ク存スルヲ見ルモ男女性間ニ於テハ全ク差異ナシ。（第二表參照）

而シテ兩側共ニ缺如スルモノハ一二例ニシテ中男性七例（二・八七%）、女性五例（二・三七%）ナリ、即チ男女性共ニ殆ンド同樣ナリ。

予ノ此ノ成績ト Le Double u. Spitano, 岡田、金杉、森川、菊地、犬丸氏等ノ研究成績ニ比スルニ第三表ニ表示セルガ如ク其ノ個數ニ於テハ全ク人種的差異ナク一個ヲ有スルモノ最モ多ク二個、三個、四個ヲ有スルモノノ順序ニ遞減スルヲ見ルト雖モ三—四個ヲ有スルモノハ略歐洲人種ニ於ケル比率ニ等シキモ東京並ニ九州地方邦人ニ比シ尠ク一個ヲ有スルモノ多數ナルヲ認ム。而シテ全然缺如セルモノハ東京並ニ九州地方邦人ニ於ケルト殆ンド同樣ニシテ歐洲人種ニ比シ甚ダ多數ナルヲ見ル。

第二表　乳嘴孔缺如ノ左右男女的關係

側別＼性別	♂		♀		♂＋♀	
	n	%	n	%	n	%
右側	19	7.8	16	9.5	35	8.5
左側	32	13.1	23	13.6	55	13.3
計	51	10.4	39	11.5	90	10.9

第三表　各人種ニ於ケル乳嘴孔數比較

報告者	材料（個數）	缺如	一個	二個	三個	四個
Le Double Spitano	歐人頭蓋（1712個）	6.4%	—	—	—	—
岡田	歐人頭蓋（212個）	6.8%	65.3%	22.1%	5.4%	0.4%
金杉	歐人頭蓋（4000個）	16.2%	61.2%	18.4%	3.9%	0.3%
森川	支那人頭蓋（114個）	10.9%	49.1%	28.1%	10.9%	1.0%
菊地	邦人頭蓋（50個）	10.0%	50.0%	29.0%	10.0%	1.0%
犬丸	邦人頭蓋（60個）	10.0%	—	—	—	—
岩田	邦人頭蓋（413個）	**10.9%**	**54.0%**	**30.0%**	**4.7%**	**0.4%**

之等全然缺如セルモノ、左右關係ニ就テハ岡田氏ハ左側一〇・九%、右側二・六七%、金杉氏ハ左側一七・九八%、右側一四・四五%、菊地氏ハ左側一二%、右側八%ニシテ左側ニ於テ甚ダ多キヲ認メ予モ亦左側一三・三%、右側八・五%ニシテ同樣左側ニ多キ成績ヲ得タルモ犬丸氏ハ全ク反對ニ左側三・三三%、右側六・六七%ニシテ右側ハ殆ンド左側ニ倍スル結果ヲ得タリト。然レドモ乳嘴孔外口ノ全ク缺如セルモノハ上記岡田氏ノ例ノ如ク其ノ大多數左側ニ存スルヤ否ヤハ甚ダ疑問トスル所ナレドモ多數學者ノ研究成績並ニ予ノ成績ノ示スガ如ク其ノ大多數ハ左側ニ存在スルモノト信ズルヲ得ベシ。

第二項　乳嘴孔外口ノ大サ

乳嘴孔外口ノ形狀多クハ楕圓形、大サハ小ナルモノハ微細ナル一點ヨリ大ナルモノハ長徑約一糎ヲ有ス。予ハ研究方法ノ條下ニ記述セルガ如ク其ノ大小ニ依リ五種ニ類別シ半米粒大以上ノモノヽミニ就キ計測ヲ行ヒタリ。即チ予ノ調査成績ハ第四表ニ於ケルガ如ク粟粒大ノモノ最多數ニシテ三五・二%、次ニ帽針頭大三四・七%、米粒大一五・七%、半米粒大八・三%、小豆大六・二%ヲ算セリ。而シテ此等乳嘴孔外口ノ大サノ左右的關係ハ右側ニ於テハ粟粒大ノモノ最モ多ク左側ニ於テハ帽針頭大ノモノ多クシテ半米粒大及ビ小豆大ノモノ即チ比較的大ナルモノハ右側ニ稍多ク米粒大ノモノハ左側ニ多シ。然レドモ一般ニ比較的大ナルモノハ兩側間ニ於テハ大ナル差異アルヲ認メザ

第四表　乳嘴孔大小各類ノ左右並ニ男女的關係

側別	性別	帽針頭大	粟粒大	半米粒大	米粒大	小豆大
右側	♂	64(24.0%)	83(32.4%)	20(8.9%)	40(17.5%)	18(8.0%)
	♀	62(40.1%)	54(35.3%)	14(9.2%)	12(7.8%)	11(7.2%)
	♂+♀	126(33.3%)	137(36.2%)	34(9.0%)	52(13.8%)	29(7.7%)
左側	♂	67(31.6%)	71(33.5%)	18(8.5%)	44(20.8%)	12(5.7%)
	♀	62(42.4%)	51(34.9%)	9(6.8%)	19(13.0%)	5(3.4%)
	♂+♀	129(36.1%)	122(34.1%)	27(7.5%)	63(17.6%)	17(4.7%)
右+左	♂+♀	34.7%	35.2%	8.3%	15.7%	6.2%

ルモ唯顯著ナル巨大孔ハ右側ニ來タル場合多キヲ見ル。

男女兩性別關係ニアリテハ男性ハ一般ニ大孔ヲ有スルモノ多ク女性ハ此レニ反シ小孔ヲ有スルモノ多キヲ知ル。

乳嘴孔外口ノ大サニ對スル先進諸家ノ報告ヲ見ルニ岡田氏(歐洲人頭蓋)ハ乳嘴孔ノ全然缺如スルモノ及ビ微細ナルモノハ左側ニ多ク右側ニ於テハ一般ニ大ナルモノヲ見ルト。金杉氏(歐洲人頭蓋)ハ全ク之レニ反シ普通左側ニ於テハ大ナルモノ多キモ右側ニ在リテハ時ニ顯著ナル巨大孔ヲ有スルコトアリト稱シ、菊地氏(邦人頭蓋)ハ乳嘴孔外口ノ大サハ微細ナル一點ヨリ直徑〇・六cmヲ有スル大孔ニ至リ粟粒大ナルモノ最モ多ク(三三%)、帽針頭大(二七%)、米粒大(二一%)、小豆大及ビ其レ以上ノモノハ九%ニ過ギズ。而シテ之レガ兩側並ニ年齡間ニ於テハ特記スベキ差異ヲ見ズト。犬丸氏ハ罌實大、帽針頭大、針尖大ノ三種ニ類別シ罌實大ノモノ五九%ニシテ最モ多ク帽針頭大二六%、針尖大一七%ナリキト云フ。

之レヲ要スルニ乳嘴孔外口ノ大サハ殆ンド全ク人種的並ニ地方的差異ヲ認メ得ザルモ左右、男女間ノ關係ニ於テハ概シテ男性ハ女性ニ比シ大ナルモノ多ク、岡田氏ノ如ク右側ハ左側ニ比シ大孔ヲ有スルコト稍多キガ如シ。

巨大ナル乳嘴孔外口ニ就テハ Le Double, Meckel, Lubosch, Laidlow, Chealte, 岡田、金杉氏等ノ報告セルガ如ク頸靜脈ノ一部或ハ全部ヲ代償セルモノアリ。殊ニ Laidlow, Chealte 等ノ例ノ如キハ該孔ノ發育强度ナル結果頸靜脈孔極メテ狹小ニシテ全ク頸靜脈窩ヲ缺如セリト云フ。

然レドモ菊地、犬丸氏等ノ邦人頭蓋ニ於ケル研究ニ於テハ直徑〇・八cm以上ノモノアルヲ見ズ、殊ニ菊地氏ハ本邦人ニ於ケル吻合孔ノ發育ハ歐洲人ノ如ク顯著ナルモノニアラザルカト稱スレドモ予ハ長徑一〇mm、短徑六・四mmヲ有シ而モ頸靜脈窩ハ他側ニ比シ甚ダシク廣濶ナルモノアルヲ實見セリ。(標本番號五一七、男性一七歲、右側)

之レヲ以テ見レバ菊地氏ノ說ク如ク吻合孔ノ發育ニ於テ彼我兩人種間ニ差異アルヲ認メ難ク、尠クトモ北陸地方邦人ニ於ケル吻合孔ノ發育ハ歐洲人種ニ比シ何等ノ差異ナシト云フヲ得ベシ。

予ノ半米粒大以上ノモノ二二二例ニ就キ計測セル結果ハ、

右　側(♂)　長徑平均四・六一mm　(最大一〇・〇mm)
短徑平均三・四六mm　(最大六・四〇mm)
(♀)　長徑平均四・二七mm　(最大七・四〇mm)
短徑平均三・二一mm　(最大五・三〇mm)

左　側(♂)　長徑平均四・三三mm　(最大八・三六mm)
短徑平均三・四九mm　(最大八・八五mm)
(♀)　長徑平均四・四二mm　(最大六・九〇mm)
短徑平均三・二七mm　(最大六・七〇mm)

即チ長徑平均四・四三mm、短徑三・三六mmニシテ之レガ男女關係ハ

♂　長徑平均四・五二mm　短徑平均三・四六mm
♀　長徑平均四・三五mm　短徑平均三・二四mm

左右關係ハ

右　側　長徑平均四・四四mm　短徑平均三・三四mm
左　側　長徑平均四・三八mm　短徑平均三・三八mm　ナリ。

即チ以上ノ計測成績ニ就テ見ルモ前述セルガ如ク男性ハ女性ニ比シ長徑、短徑共ニ大ナルモノ多キヲ見ル、左右關係ニ於テ其ノ右側長徑平均ノ左側ニ比シ大ナルヲ示スハ右側ニ於テハ時ニ異常ノ巨大ナル乳嘴孔ノ存在スルガ爲ニ來ルモノニシテ短徑ノ左側ニ於テ長キヲ以テ見テモ明カニ其ノ間ノ狀態ヲ察知シ得ベシ。

第四節　乳嘴孔外口ノ位置的關係

第一項　後頭乳嘴縫合トノ關係

乳嘴孔外口ノ後頭乳嘴縫合トノ關係ニ就テハ Bezold ハ常ニ乳嘴後頭縫合上ニ開口スルモノナリト稱シ、Bergmann ハ該縫合上或ハ其ノ近圍ニ存ストシ、Gegenbaur ハ後頭乳嘴縫合部ニ於テ通常乳嘴突起部ノ後部ニ當リ存スルコト多シト。金杉博士ハ歐洲人ニ就キ乳嘴孔外口ノ該縫合部ニ存スルモノ七二・四三%(二八九例)ヲ占メ最モ多ク、乳嘴部ニ存スルモノハ二二・二二%(八八八例)、後頭骨上ニ存スルモノ五・一二%(二〇五例)ナリキト云フ。而シテ又菊地氏ハ東京地方邦人ニ於テ該縫合ニ一致スルモノ最多數ニシテ四五%(四五例)、其ノ僅ニ前方ニ存スルモノ二七%(二七例)、該縫合線ノ僅カニ後方ニ存スルモノ五%(五例)ニシテ甚ダシク前轉シ乳嘴突起内ニ存スルモノ二%(二例)ナルヲ見タリトc即チ上記數氏ノ研究成績ニ依レバ該孔ノ後頭乳嘴縫合上ニ存スルモノ最モ多キガ如キモ森川氏ハ支那成人頭蓋ニ於テ後頭乳嘴縫合線ニ一致スルモノ僅カニ三・九五%(兩側二例、左側四例、右側一例)ニシテ該縫合線ノ前方ニ存スルモノ即チ顳顬骨上ニ存スルモノ最モ多ク五九・六九%(兩側四五例、左側二八例、右側一八例)ニシテ該縫合線ノ後方ニ存スルモノ即チ後頭骨上ニ存スルモノ七・四六%(兩側二例、左側五例、右側八例)、顱頂骨上ニ存セルモノ〇・四四%(右側一例)ナリキト稱シ、犬丸氏モ亦九州地方邦人ニ於テ該

第五表　乳嘴孔外口ノ乳嘴後頭縫合線トノ關係

縫合線トノ關係 ＼ 側別 ＼ 性別	右側 ♂ n	右側 ♂ %	右側 ♀ n	右側 ♀ %	左側 ♂ n	左側 ♂ %	左側 ♀ n	左側 ♀ %	♂＋♀ n	♂＋♀ %
縫合線上	114	50.7	60	39.2	91	45.5	65	44.5	330	44.8
同線ニ前接	17	7.6	21	13.7	32	15.1	10	6.8	80	10.9
同線ニ後接	10	4.4	9	5.9	10	4.7	3	2.1	32	4.3
同線ノ前方	64	28.4	52	34.0	59	27.8	52	35.6	227	30.8
同線ノ後方	4	1.8	3	1.9	4	1.9	3	2.1	14	1.9
乳嘴突起上	1	0.4	—	—	—	—	1	0.7	2	0.3
乳頭隅	2	0.9	—	—	1	0.5	3	2.1	6	0.8
乳嘴縫合缺如	13	5.8	8	5.2	15	7.1	9	6.2	45	6.1
	225		153		212		146		736	

縫合線上ニ存スルモノ三八%、顳顬骨上ニ存セルモノ五八%、後頭骨上ニ存セルモノ五%ナルヲ見タリト云フ。即チ之等兩氏ニヨレバ乳嘴孔外口ハ後頭乳嘴縫合線ヨリ前方ニ存スルモノ最多數ナリ。

予ノ北陸頭蓋ニ於ケル成績ハ第五表ニ見ルガ如ク Bezold, Bergmann, Gegenbaur, 金杉、菊地氏等ノ如ク後頭乳嘴縫合線上ニ存スルモノ兩側兩性共ニ最モ多ク四四・八%ヲ占メ、該縫合線ノ前方ニ存スルモノ及ビ前接スルモノ即チ顳顬骨上ニ存スルモノ四一・七%、該縫合線ノ後方ニ存スルモノ及ビ後接スルモノ即チ後頭骨上ニ認メラルヽモノ六・二%、乳嘴突起上ニ存セルモノ〇・三%ニシテ顱頂骨乳頭隅上ニ存セルモノ〇・八%ナルヲ見タリ。而シテ異常頭蓋ニシテ後頭乳嘴縫合ヲ缺クモノ四七例(六・一%)ニ於テモ乳嘴孔外口ハ通常縫合ノ存スルト思考セラルヽ部位ニ於テ見ラルヽコト多キヲ認メタリ。之レヲ要スルニ乳嘴孔外口ノ後頭乳嘴縫合トノ關係ハ歐洲人種並ニ東京地方邦人ニ於ケルガ如ク

第六表　乳嘴孔外口ノ乳嘴後頭縫合トノ關係ノ左右別

側別 / 縫合トノ關係	右側		左側	
	n	%	n	%
縫合線上	174	48.74	156	46.71
同線ニ前接	38	10.64	42	12.57
同線ニ後接	19	5.32	13	3.89
同線ノ前方	116	32.41	111	33.23
同線ノ後方	7	1.96	7	2.10
乳嘴突起上	1	0.28	1	0.30
乳頭隅上	2	0.56	4	1.20

第七表　乳嘴孔外口ノ乳嘴後頭縫合トノ關係ノ男女別

性別 / 縫合トノ關係	♂		♀	
	n	%	n	%
縫合線上	205	46.1	125	41.0
同線ニ前接	49	11.0	31	10.2
同線ニ後接	20	4.5	12	3.9
同線ノ前方	123	27.6	104	34.1
同線ノ後方	8	1.8	12	3.9
乳嘴突起上	1	0.2	1	0.3
乳頭隅上	3	0.7	3	1.0
同線缺如	28	6.3	17	5.6

該縫合線上ニ恰當シテ存在スルモノ最モ多ク、前方或ハ後方ニ於テ該縫合線ニ近接スルモノヲ合算スレバ實ニ總數ノ六〇%ニ達シ Bezold ガ言ヘルガ如ク乳嘴孔外口ハ通常乳嘴後頭縫合線上ニ存スルモノナリト稱スルモ大誤ナキモノヽ如シ。乳嘴孔外口ノ後頭乳嘴縫合線ニ對スル關係ノ左右ノ關係ハ第六表ノ如ク殆ンド特記スベキ差異ナク又男女關係ニ於テモ第七表ニ示セルガ如ク一般ニ顯著ナル差異アルヲ見ザルモ女性ハ男性ニ

比シ後頭乳嘴縫合ニ對シ離隔セルモノ多ク殊ニ後頭骨上ニ存スルモノ多キガ如シ。

第二項　Ectoconchion-Inion線トノ關係

Ectochonchion-Inion Linie ニ對スル乳嘴孔外口ノ位置的關係ハ

a　該線ニ恰當シテ存スルモノ。

b　該線ノ上方ニ存スルモノ。

c　該線ノ下方ニ存スルモノ。

ノ三類ニ類別シ得ベシ。

(a)　(Ec.-In.)線上ニ存在スルモノ。

乳嘴孔外口ノ(Ec.-In)線上ニ存在スルモノハ第八表ニ表示セルガ如ク乳嘴孔總數ノ一〇・四六%ニ當リ中男性一〇・五三%、女性一〇・三七%ナル率ヲ見、菊地氏ノ成績(七・八%)ニ比シ多キヲ見ル。之等(Ec.-In)線ニ恰當スルモノ、男女、左右ノ關係ニ於テハ前者ハ殆ンド何等ノ差異ナキモ後者ニ於テハ右側ハ左側ニ倍スルヲ見ル。即チ該線上ニ存在スルモノハ右側ニ多ク左右的差異甚ダ顯著ナリ。

第八表　乳嘴孔外口ノ(Ec.-In.)線ニ恰當スルモノノ左右並ニ男女關係

性別 / 側別	♂		♀		♂＋♀	
	n	%	n	%	n	%
右側	27	6.18	23	7.69	50	6.79
左側	19	4.35	8	2.68	27	3.67
計	46	10.53	31	10.37	77	10.46

(b)　(Ec.-In.)線ヨリ上方ニ存スルモノ。

該線ヨリ上方ニ存スルモノハ九三例(一二・六四%)ニシテ中右側五〇例(六・七九%)、左側四三例(五・八四%)ナリ。之レガ左右ノ關係ハ右側ハ左側ニ比シ稍多ク(〇・九五%)、男女ノ關係亦同樣ナルガ如キモ右側ニ於テハ女性ニ稍多キヲ見ル。即チ(Ec.-In.)線ヨリ上方ニ存スルモノ、左右、男女間ノ差異ハ殆ンド認メ難シ。

右側ニ於ケル(Ec.-In.)線及ビ乳嘴孔外口(Fm.)間ノ最短距離ハ平均五・二mm(〇・四―二・〇mm)ニシテ男性平均五・七mm(〇・七―一八・一mm)、女性平均四・六mm(〇・四―二・〇mm)ナリ。即チ男性ハ女性ニ比シ平均一・一mm高位ニ在リ。

斯クノ如ク兩性共ニ一般ニ一cm以下ニ存スルモノ其ノ大部ヲ占メ、一cm以上ノ距離ニ存スルモノハ一〇%(五例)ニシテ男性ニ稍多キヲ見ルノミ。

第九表　乳嘴孔外口ノ(Ec.-In.)線ノ上方ニ存スルモノノ男女關係(右側)

性別			平均距離	1cm以下ノモノ		1cm以上ノモノ	
	n	%		n	%	n	%
♂	25	5.72	5.7 mm	22	88%	3	12%
♀	25	8.36	4.6 mm	23	92%	2	8%
♂+♀	50	6.79	5.2 mm	45	90%	5	10%

而シテ最モ上位ニ存スルモノ男性一・七八cm女性二・〇一cmニシテ一cm以上ノ距離ニ存スルモノハ上記ノ如ク男性ニ多キ比率ヲ見ルモ女性ニ於テハ時ニ甚ダシク高位ニ存スルモノアリ。之レ臨床上注意スベキコトナルベシ。(第九表參照)

左側ニ於ケル(Ec.-In.)線及ビFm間ノ最短距離ハ平均五・四mm(〇・六―一九・七mm)ニシテ殆ンド右側ニ等シキモ男性(平均四・八mm)ハ女性(平均五・八mm)ニ比シ平均一・〇mm下位ニ存シ右側ト全ク相反スルヲ見ル。而シテ一cm以下ノ距離ニ存スルモノ及ビ一cm以上ノ距離ニ存スルモノ共ニ女性ニ多ク最モ遠隔ナル距離ニアルモノ男性一・六四cm、女性一・九七cmニシテ右側ニ於ケルガ如ク甚ダシカラザルモ女性ニ於テ高位ニ存スルモノアルヲ知ル。(第一〇表參照)

第十表　乳嘴孔外口ノ(Ec.-In.)線ノ上方ニ存スルモノノ男女關係(左側)

性別			平均距離	1cm以下ノモノ		1cm以上ノモノ	
	n	%		n	%	n	%
♂	19	4.35	4.8 mm	16	84.2%	3	15.8%
♀	24	8.03	5.8 mm	20	83.3%	4	16.7%
♂+♀	43	5.84	5.4 mm	36	83.7%	7	16.3%

之レヲ要スルニ乳嘴孔外口ノ(Ec.-In.)線ヨリ上方ニ存スルモノハ女性(一六・二九%)ハ男性(一〇・〇七%)ニ比シ甚ダ多ク男女性的差異顯著ニシテ

且ツ屢々遠隔ノ距離ニ存スルモノアルヲ以テ乳嘴突起後部ニ於テ軟部切開ヲ施スベキ必要アル場合女性ニアリテハ男性ニ比シ約〇・四mm以上ノ距離ニ於テ行フベク然ラザレバ吻合靜脈損傷ノ危險アリ。殊ニ右側ニ於テ然リトス。

(c) (Ec.-In.)線ヨリ下方ニ存スルモノ。

乳嘴孔外口ノ(Ec.-In.)線ヨリ下方ニ存スルモノハ五六六例(七六・九%)ニシテ乳嘴孔總數ノ大部ヲ占メ男性八一・六七%、女性七〇・二三%ナリ。之レガ左右並ニ男女ノ關係ニ於テハ著明ナル差異ヲ認メ得ザルモ右側ハ第一一表ニ示スガ如ク男性ニ稍多クシテ該線及ビ乳嘴孔外口間ノ最短距離ハ平均七・七mmニシテ男性七・三mm(〇・五—二二・八mm)、女性八・一mm(〇・九—二〇・九mm)ナリ。卽チ女性ハ男性ニ比シ平均〇・八mm下方ニ位ス。然レドモ該線ニ對シ最モ離隔セルモノハ男性二二・八mm、女性二〇・九mmニシテ(Ec.-In.)線ヨリ上方ニ存スルモノト全ク反對ナル結果ヲ見ル。而シテ一cm以下ニ存スルモノハ男性ニ多ク、一cm以上ノ距離ニ存スルモノハ女性ニ多シ。

第十一表 乳嘴孔外口ノ(Ec.-In.)線ノ下方ニ存スルモノノ男女關係(右側)

性別			平均距離	1cm以下ノモノ		1mc以上ノモノ	
	n	%		n	%	n	%
♂	173	39.59	7.3 mm	128	73.99	45	26.01
♀	105	35.12	8.1 mm	73	69.52	32	30.48
♂+♀	278	37.77	7.7 mm	201	72.30	77	27.70

左側ニ於テモ右側ニ於ケルガ如ク男性ニ多キヲ見ルモ乳嘴孔外口及ビ(Ec.-In)線間ノ距離ハ平均八・六mm(〇・九—二八・六mm)ニシテ右側ニ比シ平均〇・九mm下位ニアリ。然レドモ男女間ノ關係ニ於テハ右側ニ反シ男性九・二mm(〇・九—二八・六mm)、女性八・〇mm(一・二—二四・二mm)ニシテ男性ニ於テ平均一・二mm下位ニ存ス。而シテ一cm以下ニ存スルモノハ女性ニ多ク一cm以上ノ距離ニ存スルモノハ反ツテ男性ニ多クシテ右側ト全ク相反スル結果ヲ見、(Ec.-In.)線ニ對シ最モ離隔セルモノハ男性二八・六mm、女性二四・二mmニシテ男性ニ於テ甚ダシク下位ニ存スルモノアルヲ見ルハ右側ニ等シキモ右側ニ比シ男女性共ニ離隔スルコト甚ダシク男性五・八mm、女性三・三mmナリ。(第一二表參照)

第十二表　乳嘴孔外口ノ(Ec.-In)線ノ下方ニ存スルモノノ男女關係(左側)

性別			平均距離	1cm以下ノモノ		1cm以上ノモノ	
	n	%		n	%	n	%
♂	183	41.88	9.2 mm	107	58.47	76	41.53
♀	105	36.21	8.0 mm	72	68.57	33	31.43
♂+♀	288	38.50	8.6 mm	179	62.15	109	37.85

即チ乳嘴孔外口ノ(Ec.-In.)線ヨリ下方ニ存スルモノハ兩側共ニ男性ニ多キモ一cm以上ノ距離ニ存スルモノハ右側ニ於テハ反ッテ女性ニ多キ結果ヲ得タリ。然レドモ男性ハ女性ニ比シ兩側共ニ約二mm以上下位ニ存スルモノアルヲ以テ(Ec.-In.)線ノ下方ニ於テ軟部切開ヲ爲スベキ場合ハ常ニ男性ハ女性ニ於ケルヨリ約二mm下方ニ於テ行フベク、而シテ左側ハ右側ニ比シ約六mm(男性六mm、女性四mm)下方ニ於テ切開ヲ加フル必要アリ。

以上記述セル乳嘴孔外口(Fm)ノ位置ハ Ectoconchioninon-Linie ニ對シ下方ニ存スルモノ乳嘴孔總數ノ大部ヲ占メ、兩側共ニ男性ニ多キモ該線ヨリノ距離上下一cm以下ニ存スルモノハ女性ニ、一cm以上ノ距離ニ存スルモノハ男性ニ稍多ク左側ハ右側ニ比シ平均〇・二mm上位ニアリ、而シテ平均〇・九mm下位ニ存スルヲ知ル。即チ換言セバ右側ハ一般ニ(Ec.-In.)線ニ對シ其ノ近圍ニ存スルモノ多キヲ示ス。

斯クノ如ク乳嘴孔外口ノ位置ハ(Ec.-In.)線ニ對シ上方約五・三mm下方約八・二mmノ範圍ニ於テ存スルヲ知ルト雖モ吻合靜脈損傷ノ危險ヨリ脱センガ爲ニハ上方ニ於テハ約二cm下方ニ於テハ約三cmヲ隔ツル距離ニ於テ軟部切開ヲ行フベキ必要アリ。

乳嘴孔外口ノ位置ノ(Ec.-In.)線ニ對スル關係ニ就テハ岡田博士ハ歐洲人頭蓋ニ於テ該線ニ恰當スルカ或ハ其ノ近圍ニ存スルモノ右側三七・五三%、左側三二・三%ニシテ、該線ノ上方一cm以下ニ存スルモノ右側三八・七三%、左側三七・五%、該線ノ下方一cm以下ニ存スルモノ右側一六・二八%、左側一七・九六%、該線ノ上方一cm以上ノ距離ニアルモノ右側三・八八%、左側一〇・九五%、該線ノ下方一cm以上ノ距離ニ存スルモノ右側一・五五%、左側一・五四%ナリ。即チ氏

ハ何糎以下ニ存スルモノヲ以テ該線ノ近圍ニ存スルモノナリトセルヤハ不明ナルモ該線ニ恰當スルモノ及ビ其ノ近圍ニ存スルモノ三五・七八%、該線ノ上方一cm以下ノモノ三八・一二%、該線ノ上方一cm以上ノモノ七・四二%、下方一cm以下ノモノ一七・一二%、下方一cm以上ノ距離ニ存スルモノ一・五五%ナル成績ヲ得タリト。菊地氏ハ東京地方邦人ニ於テ該連結線ニ恰當スルモノ七・八%、上方一cm以下ノモノ三一・一%、下方一cm以下ノモノモノ三五・五%、下方一cm以上ノモノ二五・五%ニシテ同線ノ上方一cm以上ノ距離ニ存セルモノハ一例モ認メザリキト。即チ乳嘴孔外口ノ該線ニ對スル位置ハ該線ニ恰適スルモノ甚ダ少クシテ多クハ其ノ上下殊ニ下方ニ存スルモノ多數(六一%)ナリトノ結論ニ達セリ。

之等兩氏ノ歐洲並ニ東京地方邦人ニ於ケル成績ト比較對照スルニ予ノ北陸地方邦人ニ於ケル吻合孔外口ノ該線ニ對スル關係ハ第一三表ニ示セルガ如ク東京地方邦人ニ比シ同線ノ上方一cm以下ニ存スルモノ甚ダ尠ク(二〇・〇九%)、下方一cm以上ニ存スルモノハ彼我殆ンド相等シキガ如キモ、下方一cm以下ニ存スルモノハ一・六・一三%多シ。然レドモ一般ニ同線ノ下方ニ存スルモノ乳嘴孔總數ノ大部ヲ占ムルハ相一致スル所ナリ。

第十三表　乳嘴孔外口ノ(Ec.-In.)線トノ關係

報告者 / (Ec-In)線トノ關係	岡田(歐洲人)	菊地(東京地方邦人)	著者(北陸地方邦人)
(Ec-In)線ニ恰當スルモノ	35.78%	7.8%	10.46%
同線ノ上方1cm以下	38.12%	31.1%	11.01%
同線ノ上方1cm以上	7.42%	—	1.63%
同線ノ下方1cm以下	17.12%	35.5%	51.63%
同線ノ下方1cm以上	1.55%	25.5%	25.27%

菊地氏ハ乳嘴孔外口ノEctoconchionion-linieニ對スル關係ハ臨床上生體ニ於テハ其ノ計測晒嘴頭蓋ニ於ケルガ如ク正確ヲ期シ難キヲ以テ同線ノ上下〇・五cm以下ニ存スルモノハ往々同線ニ恰適スルモノトシテ算セラル、コト稀ナラズトナシ同線ノ上下〇・五cm以下ノ距離ニ存スルモノヲ全數ヨリ撰出シ其ノ過半數即チ五二%ハ同線ニ恰適スルモノナリト見做スコト能ハザルニアラズト云ヘリ。然レドモ予ノ北陸地方邦人ニ在リテハ菊地氏ノ言ノ如ク同線ノ上下〇・五cm

以下ニ存スルモノヲ合算シ之レヲ同線ニ恰適スルモノトシテ計算スルモ二九七例(四〇・三五%)ニシテ其ノ過半數即チ五九・六九%ハ反ツテ同線ノ上下〇・五cm以上ノ距離ニ存スルモノナリキ。即チ乳嘴孔外口ノ位置ハ東京地方邦人ニ比シテハ一般ニ該線ノ下方ニ存スルモノ多ク、上方ニ存スルモノ尠ク、菊地氏ハ該線ノ上方一cm以上ノ距離ニ存スルモノ一例モ見ザリシモ予ハ僅カニ一・六三%ニ過ギザレドモ之レヲ認メタリ。

歐洲人ニ比シテハ該線ニ恰適スルモノ及ビ該線ノ上方ニ存スルモノ甚ダ尠ク(前者二五・三二%、後者三二・九%)其ノ⅓ニ充タザルモ該線ノ下方ニ存スルモノハ甚ダ多ク(五八・二三%)彼ニ二倍ス。

以上ノ事實ヨリ之レヲ見レバ北陸地方邦人ニ於ケル乳嘴孔外口ノ位置ハ Ectoconchioninion-Linie ニ對シ東京地方邦人ニ比シ下方ニ存スルモノ多ク歐洲人ニ比シテハ甚ダシク下方ニ存スルモノ多數ニシテ上方ニ存スルモノハ⅓ニ充タズ。之レ人種解剖學上興味アルモノナリトス。

第三項　Porion ヨリ Foramen mastoideum ノ距離

外聽孔上緣即チ Porion (Po.) ハ解剖學上 Deutsche Horizontale ノ目標點ナルト生體ニ於テ極メテ容易ニ而モ常ニ外側面ヨリ見得ラル、一點ナルヲ以テ岡田博士ハ該點ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル距離ヲ計測シ、犬丸氏ハ Deutsche Horizontale ガ外聽孔上緣ヲ通過スル一定ナル直線ナルヲ以テ同線ニ對スル乳嘴孔外口ノ關係ニ就キテ調査セリ。

予モ亦該點ヨリ該孔外口ニ至ル距離ノ解剖學上並ニ外科手術上有意義ナルベキヲ思考シ計測ヲ行ヘリ。

Porion ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル距離即チ (Po.-Fm.) 線ノ方向ハ勿論該孔外口ノ位置ニヨリ一定セズ或ハ水平位、或ハ上方、或ハ下方ニ向フト雖モ下方ニ向フモノ稍多キガ如シ。即チ該孔外口ハ Deutsche Horizontale ヨリ下方ニ存スルコト多キヲ知ル。犬丸氏ノ報告ニ依レバ Deutsche Horizontale ニ恰適スルモノハ檢査頭蓋六〇個中僅カニ三例ニシテ爾餘ハ下方ニ存セリト。予ノ計測セル該線ノ平均距離ハ成人頭蓋ニ於テハ三九・一四mm(二三・六—五〇・九mm)ニシテ小兒頭蓋(一五歲未滿)ニアリテハ三五・〇一mm(二九・八—三八・六mm)ナリ。

第十四表　外聽孔上緣ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル(Po.-Fm)線ノ距離(成人頭蓋)

側別＼性別	♂(mm)	♀(mm)	♂+♀(mm)
R	40.39	37.28	38.84
L	41.42	37.47	39.45
R+L	40.91	37.38	39.14

認メ難シ。約言セバ乳嘴孔外口ノ位置ハ Porion ヨリ約三九mmノ距離ニ存シ左側ハ右側ニ於ケルヨリモ長ク、女性ハ男性ニ比シ甚ダシク短小ナリ。

小兒頭蓋ニ於ケル左右、男女ノ關係ハ第一五表ニ示セルガ如ク成人頭蓋ニ反シ右側(三五・三七mm)ハ左側(三四・六六mm)ニ比シ平均〇・七一mm長キモ男女ノ關係ハ男性(三五・六二mm)、女性(三四・四一mm)ニシテ成人頭蓋ニ於ケルガ如ク男性平均〇・五三mm長キヲ見ル。然レドモ男女性ノ左右ニ於ケル關係ハ全ク反對ニシテ右側ハ左側ニ比シ稍長シ。即チ小兒頭蓋ニ於テハ成人頭蓋ニ比シ一般ニ短小ナルハ勿論ニシテ何等ノ疑問ナキ所ナルモ唯男女性間ノ關係ニ於テ殆ンド同樣ナルヲ見ルノミニシテ左右並ニ左右ニ於ケル男女ノ關係ハ全ク相反スル結果ヲ見ルハ注目ニ値スベシ。即チ予ハ此等ノ事實ハ一〇歳—一六歳ニ於テ女性ハ身體各部著シキ發達ヲ來スニ反シ男性ハ其ノ發育猶緩ナルヲ以テ斯クノ如キ結果ヲ來セルモノナリト思考ス。

第十五表　外聽孔上緣ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル(Po.-Fm.)線ノ距離(小兒頭蓋)

側別＼性別	♂(mm)	♀(mm)	♂+♀(mm)
R	36.23	34.50	35.37
L	35.00	34.32	34.66
R+L	35.62	34.41	35.02

以上ノ如ク予ノ北陸地方邦人ニ於ケル乳嘴孔外口ノ位置ハ外聽孔上緣ヨリ成人三九・一四mm、小兒三五・〇一mmニシテ

成人頭蓋ニ於ケル左右並ニ男女ノ關係ハ第一四表ニ示セルガ如ク左側(三九・四五mm)ハ右側(三八・八四mm)ニ比シ平均〇・六一mm長ク、男性平均距離四〇・九一mm(二五・〇—五〇・九mm)ナルモ女性平均距離ハ三七・三八mm(二三・六—四五・七mm)ニシテ男女間ノ差實ニ平均三・五三mmニ達ス。然レドモ之等男女性ノ左右ニ於ケル關係ハ兩性共ニ左側ハ右側ニ比シ稍長キガ如キモ顯著ナル差異ハ

歐洲人ニ比シ共ニ甚ダ遠ク其ノ差異一cm以上ニシテ人種的差異甚ダ顯著ナリ。

吾人ガ手術時 Porion ヨリ乳嘴孔外口ノ位置ヲ知ラントスル場合ハ成人ニ在リテハ約四cm、小兒ニアリテハ約三·五cmヲ半徑トシ Porion ヲ中心トシテ畫キタル圓弧上ニシテ Deutsche Horizontale ノ近圍ニ存スルモノ（(Ec.-In.) 線ノ上下約〇·八mm）トセバ大誤ナキガ如シ。

第四項　外聽孔後緣中央部ヨリ乳嘴孔ニ至ル距離

外聽孔後壁中央部（Hp.）ヨリ乳嘴孔外口（Fm）ニ至ル距離ハ生體ニ於テ術間容易ニ測定シ得ベク極メテ至便ナルヲ以テ Bezold, 岡田、菊地氏等ノ歐洲並ニ東京地方邦人ニ就キ計測セラレタリ。

予ノ（Hp-Fm）間ノ距離ノ計測成績ハ成人頭蓋ニ於テハ平均三一·六五mm（一四·〇—四五·四mm）ニシテ右側平均三一·二五mm（二二·七—四一·一mm）、左側平均三一·五四mm（一四·〇—四五·四mm）ナリ。即チ左右側間ニ於ケル平均距離ノ差ハ僅カニ〇·二九mmニシテ優ニ生體ニ於ケル悞測ノ範圍內ニ在リ。之レガ左右並ニ男女ノ關係ニ就テハ第一六表ニ示スガ如ク共ニ殆ンド差異アルヲ認メザルモ男女ノ關係ニ於テハ男性三一·八七mm（二二·四—四五·四mm）ハ女性三〇·九三mm（一四·〇—四一·一mm）ニ比シ平均〇·九mm長キヲ見ル。

小兒頭蓋ニ於テハ平均二八·五二mm（二三·九—三二·四mm）ニシテ右側平均二九·一二mm（二三·九—三二·一五mm）、左側平均二七·九一mm（二五·五五—三二·四mm）ナリ。即チ左右間ノ平均距離ノ差ハ一·二一mmナルモ生體ニ於ケル悞測ノ範圍ヲ脫セズ左右的差異トシテモ亦認メ難シ。而シテ左右並ニ男女ノ關係ハ成人頭蓋ニ於ケルト同樣右側ハ左側ニ比シ稍長キガ如

第十六表　外聽孔後壁中央部ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル（Hp.-Fm）線ノ距離（成人頭蓋）

性別／側別	♂（mm）	♀（mm）	♂+♀（mm）
R	31.35	31.15	31.25
L	32.38	30.70	31.54
R+L	31.87	30.93	31.65

第十七表　外聽孔後壁中央部ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル(Hp.-Fm.)線ノ距離(小兒頭蓋)

性別／側別	♂(mm)	♀(mm)	♂+♀(mm)
R	29.70	28.54	29.12
L	27.68	28.13	27.91
R+L	28.69	28.34	28.52

シ。(第一七表參照)

之レヲ要スルニ北陸地方邦人ニ於ケル乳嘴孔外口ノ外聽孔後緣中央部ヨリノ距離ハ歐洲人(Bezold, 三〇・八mm、岡田三〇・四五mm)ニ比シ稍長ク東京地方並ニ九州地方邦人(菊地三二・八mm、犬丸三二・〇mm)ニ比シ稍短カク其ノ中間位ニ存スト雖モ人種的並ニ地方的差異トシテ認ムルニ足ラズ。

敢テ地方的差異ナリト認ムルニハアラザレドモ男女ノ關係ニ於テハ彼我全ク同樣ナルヲ見ルモ菊地氏ハ左右ノ關係ニ於テ予ノ成績ト全ク相反シ左側(三三mm)ハ右側(三〇mm)ニ比シ平均mm三長キ結果ヲ得タリ。

第五項　乳嘴突起尖端ヨリ乳嘴孔ニ至ル距離

乳嘴突起尖端(Sm.)ヨリ乳嘴孔外口(Fm.)ニ至ル距離(Sm.-Fm線)ニ就テハ外聽道上緣並ニ外聽孔後壁中央部ト同樣共ニ生體ニ於テ極メテ容易ニ觸知シ得ラルヽヲ以テ先進諸家ノ殆ンド大部ニ依リ計測セラレタリ。

第十八表　乳嘴突起尖端ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル(Sm.-Fm.)線ノ距離(成人頭蓋)

性別／側別	♂(mm)	♀(mm)	♂+♀(mm)
R	31.12	29.14	30.13
L	27.99	29.20	28.60
R+L	29.56	29.17	29.37

予ノ成人頭蓋ニ於ケル計測成績ハ平均二九・三七mm(一五・五—五三・六mm)ニシテ右側平均三〇・一三mm(一七・四—五三・六mm)、左側平均二八・六〇mm(一五・五—五一・五mm)ニシテ右側ハ平均一・五三mm長キヲ見ル。而シテ之レガ左右並ニ男女ノ關係ハ右側ニ於テハ男性ハ、女性ニ比シ平均一・九八mm長キモ左側ハ之レニ反シ女性平均一・二一mm長キヲ見ル(第一八表參照)。之レ男性ニ於テ

ハ一般ニ乳嘴突起ノ發育佳良ニシテ該尖端ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル距離ハ女性ニ於ケルヨリモ長キ理ナルモ既ニ第二項ニ於テ記述セルガ如ク男性左側ハ一般ニ(Ec.-In.)線ニ對シ下方遠隔ナル距離ニ存スルモノ多キヲ以テ斯クノ如キ平均數ヲ來セルモノナリ。

小兒頭蓋ニ於テハ平均二四・一七mm(一六・一五—三四・二五mm)ニシテ右側平均二五・五五mm、左側平均二二・四九mmナリ。即チ右側ハ左側ニ比シ二・七六mm長キヲ見ルモ之レガ男女間ノ關係ハ男性ハ右側ニ於テ甚ダ長ク(六・四四mm)、女性ハ左側ニ於テ稍長シ(〇・九二mm)。要スルニ小兒頭蓋ニ於テモ殆ンド成人頭蓋ニ於ケル關係ニ等シキモ男性ニ在リテ特ニ右側ニ長キハ注目ニ値スベク、此ノ依ツテ來ル原因ハ既述成人頭蓋右側ニ於ケル場合ト同樣ナリ。(第一九表參照)

第十九表　乳嘴突起尖端ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル(Sm.-Fm.)線ノ距離(小兒頭蓋)

側別＼性別	♂(mm)	♀(mm)	♂+♀(mm)
R	26.52	24.58	25.55
L	20.08	25.50	22.79
R+L	23.30	25.08	24.17

予ノ北陸地方邦人ニ於ケル計測成績ハ歐洲人ニ於ケル該距離ノ計測成績(Bezold三〇・九mm、岡田三〇・〇mm、金杉三五・五mm(一九・〇—五二・〇mm))、支那成人ニ於ケル森川氏ノ計測成績三〇・五四mm(一三・二—四八・五mm)、菊地氏ニ依ル東京地方邦人ニ於ケル計測成績三〇・一mmニ比シ稍短カキガ如キモ生體ニ於ケル悞測ノ範圍內ニアリテ人種的差異ト認ムル能ハズ。

故ニ臨床上ニ於テハ乳嘴孔外口ノ位置ハ乳嘴突起尖端ヨリ約三cmノ距離ニ存スルモノトスルヲ得ベシ。

第六項　乳嘴截痕最終端ヨリ乳嘴孔ニ至ル距離並ニ(Im-Fm)線ノ方向

Trautmann ハ乳嘴突起後緣上⅓ノ下端ニ一點ヲ設ケ乳嘴孔外口ハ該點ニ一致スルカ或ハ其ノ近圍ニ存スト稱シ、岡田博士モ同樣該點ニ對スル該孔外口ノ位置的關係ニ就テ Trautmann ノ說ニ讃シタリト雖モ該點ハ生體ニ於テ容易ニ見出シ得ザル缺點アルヲ以テ菊地氏ハ其ノ附近ニ於テ然モ生體ニ於テ容易ニ觸知シ得ベキ一點即チ乳嘴截痕最終端(Im)ヨリ該孔外口ニ至ル距離ヲ測定セリ。予モ亦菊地氏ノ言ノ解剖學上及ビ臨床上適切ナルヲ認メ、該點ヨリ吻合孔外口

ニ至ル距離ヲ計測シ同時ニ之等二點ヲ連結スル線即チ(Im.-Fm.)線ノ方向ニ就キテ調査セリ。

即チ成人頭蓋ニ於ケル該線ノ距離ハ一〇・二六mm(一・一—三六・七mm)ニシテ小兒頭蓋ニ在リテハ一二・三六mm(三・〇—一八・六〇mm)ナリ。

成人頭蓋ニ於ケル左右並ニ男女ノ關係ハ第二〇表ノ如ク左側一〇・二六mm(一・二—三六・三mm)、右側一〇・二六mm(一・一—三六・七mm)ニシテ其ノ平均數全ク同一ナルモ男女ノ關係ニ於テハ男性ハ右側ニ長ク(〇・五mm)、女性ニ於テハ左側ニ長キヲ見ル(〇・五mm)。

第二十表　乳嘴截痕最終端ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル(Im.-Fm.)線ノ距離(成人頭蓋)

性別／側別	♂(mm)	♀(mm)	♂+♀(mm)
R	10.54	9.97	10.26
L	10.04	10.47	10.26
R+L	10.29	10.22	10.26

第二十一表　乳嘴截痕最終端ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル(Im.-Fm.)線ノ距離(小兒頭蓋)

性別／側別	♂(mm)	♀(mm)	♂+♀(mm)
R	14.87	12.73	13.80
L	10.35	11.47	10.91
R+L	12.61	12.10	12.36

小兒ニ於ケル左右、男女ノ關係ハ右側一三・八mm(九・六—一八・三mm)ハ左側一〇・九一mm(三・〇—一八・六mm)ニ比シ二・八九mm多シ。然レドモ男女性間ノ關係ハ成人ニ於ケル場合ニ等シク男性ハ右側ニ長ク(一・五二mm)、女性ハ左側ニ長シ(一・二六mm)(第二一表參照)。

該連結線即チ(Im.-Fm.)線ノ方向ハ乳嘴截痕最終端部ニ於ケル水平線ニ對シ後上方ニ存スルモノ最モ多ク男性七二・一%、女性七五%ニシテ後方水平線上ニ存スルモノ次位ニ在リ男性一一・〇%、女性一一・六%ナリ。而シテ後下方ニ存スルモノ、尖端部ノ直上方ニ存スルモノ、前上方ニ存スルモノ、截痕中ニ存スルモノハ夫レモ少數ニシテ此等總計男性一六・八%、女性一五・九%ニ過ギズ。(第二二表參照)

之レガ詳細ナル兩側、兩性間ノ關係ハ右側ニアリテハ(第二三表參照)乳嘴截痕最終端ヨリ後上方ニ存スルモノ最多數ニシテ七二・四八%ヲ占メ、次ニ水平線上ニ存スルモノ一一・三八%ナリ。而シテ截痕中ニ存スルモノハ僅カニ三例

第二十二表　乳嘴截痕最終端及ビ乳嘴孔外口連絡線(Im.-Fm.)線ノ方向並ニ其ノ男女關係

性別 / (Im-Fm)線ノ方向	♂	♀	♂+♀
後上方	72.1%	75.0%	73.23%
後下方	8.5%	7.4%	8.15%
後方平行	11.0%	11.6%	10.87%
上方	5.5%	6.0%	5.43%
前上方	1.6%	1.8%	1.36%
截痕中	1.2%	0.7%	0.95%

第二十三表　(Im.-Fm.)線ノ方向ノ男女關係(右側)

性別 / (Im-Fm)線ノ方向	♂		♀		♂+♀	
	n	%	n	%	n	%
後上方	161	71.6	113	73.9	274	72.48
後下方	19	8.6	12	7.8	31	8.20
後方平行	24	10.7	19	12.4	43	11.38
上方	15	6.7	8	5.2	23	6.08
前上方	4	1.8	—	—	4	1.06
截痕中	2	0.9	1	0.7	3	0.79

(〇・七八%)ニ過ギズ、男女ノ關係ニ於テハ後上方ニ存スルモノ及ビ後方水平位ニ存スルモノ女性ニ多ク、前上方並ニ截痕中ニ存スルモノ男性ニ多キヲ見ルモ特記スベキ差異ナシ。

第二十四表　(Im.-Fm.)線ノ方向ノ男女關係(左側)

性別 / (Im-Fm)線ノ方向	♂		♀		♂+♀	
	n	%	n	%	n	%
後上方	154	72.6	111	76.0	265	74.02
後下方	19	9.0	10	6.9	29	8.10
後方平行	24	11.3	13	8.9	37	10.34
上方	9	4.2	8	5.5	17	4.79
前上方	3	1.4	3	2.0	6	1.68
截痕中	3	1.4	1	0.7	4	1.12

左側ニ於テモ右側ニ同ジク(第二四表參照)後上方ニ存スルモノ最多數ヲ占メ、水平線ニ一致スルモノ次位ニ在リ、截痕内ニ存スルモノ一・一二%ナルヲ認ム。而シテ之レガ男女ノ關係ニ於テハ後上方ニ存スルモノ獨リ女性ニ多ク、後下方、水平位、前上方及ビ截痕内ニ存スルモノハ男性ニ多キヲ見ル。

予ハ乳嘴孔截痕最終端ヨリ吻合孔外口ニ至ル距離ヲ各類別ニ其ノ主ナルモノヽミニ就キ計測セルヲ以テ以下記述セントス。

(a) 後上方ニ存スルモノ。 乳嘴孔外口ノ乳嘴截痕最終端ヨリ後上方ニ存スルモノヽ平均距離ハ一〇・九mm（一・二—三六・七mm）ニシテ右側ニ於テハ男性ニ、左側ニ於テハ女性ニ稍長キガ如キモ生體ニ於ケル悞測ト見做スベキ範圍ニアリ。（第二五表參照）

第二十五表　後上方ニ存スルモノノ距離ノ左右、男女關係

側別＼性別	♂ (mm)	♀ (mm)	♂+♀ (mm)
R	11.10	10.60	10.85
L	10.80	11.10	10.95
R+L	10.95	10.85	10.90

第二十六表　後下方ニ存スルモノノ距離ノ左右、男女關係

側別＼性別	♂ (mm)	♀ (mm)	♂+♀ (mm)
R	7.93	9.63	8.78
L	9.88	8.79	9.34
R+L	8.91	9.21	9.06

第二十七表　乳嘴截痕最終端部ニ於ケル水平線上ニ存スルモノノ距離ノ左右、男女關係

側別＼性別	♂ (mm)	♀ (mm)	♂+♀ (mm)
R	7.10	8.40	7.75
L	7.00	8.10	7.55
R+L	7.05	8.25	7.65

(b) 後下方ニ存スルモノ。 後下方ニ存スルモノノ平均距離ハ九・〇六mm（四・七〇—一五・一五mm）ニシテ女性ハ男性ニ比シ長シ。而シテ之レガ男女ノ關係ハ右側ハ女性ニ、左側ハ男性ニ於テ長キヲ認ム。（第二十六表參照）

(c) 水平線ニ一致スルモノ。 水平線ニ一致シテ存スルモノヽ平均距離ハ七・六五mm（一・一—一九・八mm）ニシテ兩側共ニ女性ニ長キヲ見ル。（第二十七表參照）

之レヲ要スルニ乳嘴截痕最終端ヨリ吻合孔外口ニ至ル距離ハ平均九・三八mmニシテ菊地氏ノ成績（一〇・〇九mm）ニ略ボ

相等シキヲ見ル。卽チ乳嘴截痕最終端部ヲ中心トシ約一cmヲ半徑トシテ畫キタル圓ノ後半球內ニシテ多クハ後上四分圓內ニ存スルモノトセバ大過ナキガ如シ。

第七項　外聽孔後壁中央部ヨリ乳嘴突起尖端ニ至ル距離

外聽孔後壁中央部(Hp)及ビ乳嘴突起尖端(Sm)連結線卽チ(Hp.-Sm.)線ノ距離ハ直接乳嘴孔外口ノ位置決定ニ對シ價値アルモノニアラザレドモ後項記述スベキ各部位ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル距離ノ相互關係ヲ知ルニ便ナルガ爲ニ測定スルコトヽセリ。

第二十八表　外聽孔後壁中央部ヨリ乳嘴突起尖端ニ至ル(Hp.-Sm.)線ノ距離(成人頭蓋)

側別＼性別	♂(mm)	♀(mm)	♂+♀(mm)
R	25.82	21.73	23.78
L	25.57	21.83	23.70
R+L	25.70	21.78	23.74

第二十九表　外聽孔後壁中央部ヨリ乳嘴突起尖端ニ至ル(Hp.-Sm.)線ノ距離(小兒頭蓋)

側別＼性別	♂(mm)	♀(mm)	♂+♀(mm)
R	19.25	17.18	18.22
L	20.93	16.53	18.73
R+L	20.09	16.86	18.48

予ノ北陸邦人頭蓋ニ於ケル該距離ハ成人頭蓋ニ於テ平均二二·七四mm(六·一—三九·二mm)ニシテ男性平均二五·七〇mm(一三·〇—三九·二mm)、女性平均二一·七八mm(六·一—三二·五mm)ナリ。卽チ男性ハ女性ニ比シ平均三·九二mm長シ。而シテ男女並ニ左右間ノ關係ハ一般ニ左側ニ長ク兩側共ニ男女性間ノ差異甚ダ顯著ナリ(第二十八表參照)。之レ卽チ男性ハ女性ニ比シ乳嘴突起ノ發育佳良ナルヲ示スモノニシテ、此ノ事實ハ諸學者ノ等シク認ムル所ナリトス。

小兒頭蓋ニ於テハ平均一八·四八mm(一二·五〇—二二·七〇mm)ニシテ右側平均一八·二二mm(一二·五〇—二二·五〇mm)、左側平均一八·七三mm(一二·五五—二二·七〇mm)ニシテ成人頭蓋ニ於ケルガ如ク其ノ差顯著ナラザレドモ左側ハ右側ニ比シ稍長キヲ見ル。之等

左右、男女ノ關係ハ男性二〇・〇九mm（一六・四—二二・五mm）、女性一六・八六mm（一二・五—二二・七mm）ニシテ男性ハ女性ニ比シ平均三・二六mm長キヲ見ル。然レドモ左右間ノ關係ニ於テハ殆ンド差異ヲ見ズ。即チ小兒ニ於テモ男性ハ女性ニ比シ既ニ乳嘴突起發育佳良ナル狀態ニ存スルヲ知ル。（第二十九表參照）

第五節　Porion、外聽孔後緣中央部、乳嘴突起尖端ヨリ乳嘴孔ニ至ル距離並ニ外聽孔後緣中央部ヨリ乳嘴突起尖端ニ至ル距離ノ相互關係

第四節ニ於テ記載セル（Hp.-Sm.），（Hp.-Fm.），（Sm.-Fm.），各線間ノ相互關係ニ就テ菊地氏ハ乳嘴孔外口ノ位置ハ（Hp.-Sm.）線ヲ底邊トシ（Hp.-Fm.），（Sm.-Fm.）線ヲ二邊トスル略二等邊三角形ノ頂點ニ等シク、二邊ノ長サハ約三cmナリト云フ。

予ノ北陸頭蓋調査成績ニ於テモ該孔外口ノ位置ハ略同樣ナルガ如シト雖モ、其ノ左右、男女間ニ於テ幾分ノ差異アルヲ免レズ。

成人頭蓋ニ在リテハ右側ハ三〇・九四mm（（Hp.-Fm.）—三一・七五mm、（Sm.-Fm.）—三〇・一三mm）ヲ二邊トシ二三・七八mmヲ底邊トスル二等邊三角形ニシテ、男性ハ三一・八mmヲ二邊トシ二五・八mmヲ底邊トスル二等邊三角形、女性ハ三〇・一三mmヲ二邊トシ二一・八mmヲ底邊トスル二等邊三角形ニシテ女性ハ男性ニ比シ其ノ三角形狹小ナリ。

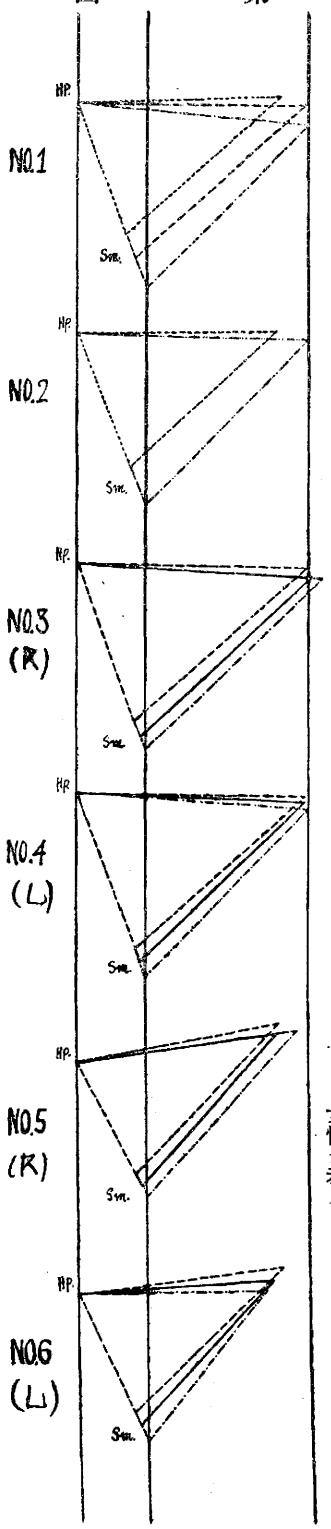
左側ニ於テハ三〇・〇七mmヲ二邊トシ二三・七mmヲ底邊トスル二等邊三角形ニシテ男性ハ三〇・一九mmヲ二邊トシ二五・六mmヲ底邊トシ、女性ハ二九・九五mmヲ二邊トシ二一・八mmヲ底邊トスル二等邊三角形ニ等シクシテ右側ニ等シク女性ニ於テ稍狹ク左側ハ右側ヨリ一般ニ狹小ナリ。

然レドモ左右、男女間ニ顯著ナル差異ナク菊地氏ノ東京地方邦人頭蓋研究成績ニ於ケルガ如ク約三cmヲ二邊トシ、二・五cmヲ底邊トスル二等邊三角形ノ頂點ニ恰適スルモノト思考スルヲ得ベシ。

小兒頭蓋ニ於テハ成人頭蓋ニ比シ該三角形ノ狹小ナルハ何人モ疑フコトナキ事實ナルモ二六・三三mmヲ二邊トシ一八・四七mmヲ底邊トスル二等邊三角形ニシテ成人ニ比シ二邊ノ長サ約四mm、底邊ハ約五・八mm短クシテ該三角形ハ甚ダシク狹小ナリ。而シテ之レガ左右並ニ男女間ノ關係ハ右側ハ約二七mmヲ二邊トシ一八mmヲ底邊トスル二等邊三角形ニシテ男性ハ約二八mmヲ二邊トシ、一九mmヲ底邊トスル三角形、女性ハ約二七mmヲ二邊トシ、一七mmヲ底邊トスル三角形ニ等シ。左側ハ約二五mmヲ二邊トシ約一九mmヲ底邊トスル二等邊三角形ニシテ男性ハ約二四mmヲ二邊トシ二一mmヲ底邊トスル三角形、女性ハ二七mmヲ二邊トシ、一七mmヲ底邊トスル三角形ナリ。即チ女性ニ於テハ兩側共ニ殆ンド差異ナキモ男性左側ハ甚ダ狹小ナリ。故ニ臨床上小兒殊ニ左側ニ於テ後頭蓋軟部切開ヲ要スル場合注意ヲ要スルコトナリト信ズ。

以上記述セル二等邊三角形ヲ左右、男女並ニ成人、小兒ニ依リ「セクション・ペーパー」上ニ記入圖示シテ比較セバ下圖ノ如シ。（第一圖ハ凡テ底邊(Hp.-Sm.)ノ位置ヲ基準トセリ。）

第一圖



第二章　後頭動脈溝(Sulcus arteriae occipitalis)ニ就テ

乳嘴突起內側面ニ於テ前後ニ通ズル乳嘴截痕ト相竝行シ該截痕內側ヲ走ル淺溝ハ即チ後頭動脈溝ニシテ同名動脈ヲ通ズ。後頭動脈ハ外頸動脈ノ位置或ハ其ノ稍高位ニ於テ外頸動脈ヨリ分枝シ數個ノ頸筋ニ被ハレ顳顬骨後頭動脈溝ニ

出デ頭夾板筋ノ停止部ヲ穿通シ後頭骨鱗狀部ノ外側面ヲ上行ス。

該動脈溝ハ普通殆ンド存在スルモノナレドモ時ニ之レヲ缺如スルコトアリト云フ。予ハ該溝ノ頻度並ニ乳嘴突起後面ヨリノ距離ヲ計測シ左右並ニ男女性的差異ノ存スルヤ否ヤヲ研究セリ。

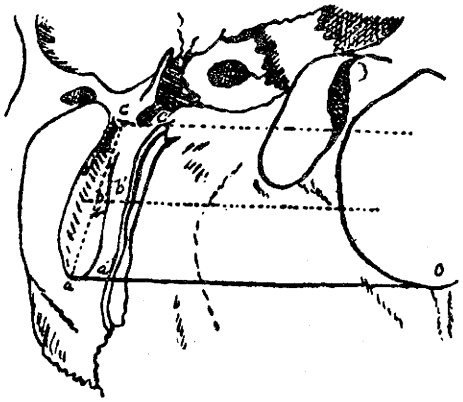
第一節　研究材料並ニ研究方法

研究材料。晒嘴北陸地方頭蓋四二一個ニシテ其ノ性的内譯上掲ノ如シ。

性別	調査數	總數
♂	252	421
♀	169	

研究方法。　圖示セルガ如ク乳嘴突起後端ヲaトシ大後頭孔及ビ外後頭櫛ト交連スル部位(Opisthion)ニ對シaヨリ假線(a-Opisthion)ヲ設ケ後頭動脈溝トノ交叉點ヲa′トス。又乳嘴突起前端ヲcトシ(a-Opisthion)線ニ平行ナル假線ヲ引キ該溝トノ交點ヲc′トス。而シテa′、c′ノ中點ヲb′トシb′ヲ通リ(a-Opisthion)線ニ平行ナル直線ノ乳嘴突起トノ交點ヲbトシ(a-a′),(b-′b),(c-c′)ノ距離ヲ計測セリ。(第二圖參照)

第二圖



而シテ予ハ計測距離並ニ該動脈溝ノ著明、中等度著明、不鮮明等ノ各種ノ組合ハセヲ次ノVII類ニ類別シ又此等各類ヲ各々III型ニ分類セリ。即チ

I類
- I型　後頭動脈溝著明ニシテ其ノ距離c′ヨリa′ニ到ルモノ。
- II型　溝中等度著明ニシテ其ノ距離c′ヨリa′ニイタルモノ。
- III型　溝不鮮明ニシテ其ノ距離c′ヨリa′ニ到ルモノ。

II類
- I型　溝著明ニシテ其ノ距離b′ヨリc′ニ到ルモノ。
- II型　溝中等度著明ニシテ其ノ距離b′ヨリc′ニ到ルモノ。
- III型　溝不鮮明ニシテ其ノ距離b′ヨリc′ニ到ルモノ。

III類
- I型　溝著明ニシテ其ノ距離a′ヨリb′ニ到ルモノ。
- II型　溝中等度著明ニシテ其ノ距離a′ヨリb′ニ到ルモノ。
- III型　溝不鮮明ニシテ其ノ距離a′ヨリb′ニ到ルモノ。

IV類
- I型　溝著明ナルモc′ノミ存スルモノ。
- II型　溝中等度著明ナルモc′ノミ存スルモノ。
- III型　溝不鮮明ニシテc′ノミ存スルモノ。

V類
- I型　溝著明ナルモb′ノミ存スルモノ。
- II型　溝中等度著明ニシテb′ノミ存スルモノ。
- III型　溝不鮮明ニシテb′ノミ存スルモノ。

VI類
- I型　溝著明ナルモa′ノミ存スルモノ。
- II型　溝中等度著明ナルモa′ノミ存スルモノ。
- III型　溝不鮮明ニシテa′ノミ存スルモノ。

VII類　該動脈溝ノ全然缺如セルモノ。

第三十表　後頭動脈溝ノ發育程度

側別 / 發育程度	R n	R %	L n	L %	R+L n	R+L %
著明	122	28.98	107	25.42	229	27.20
中等度	105	24.94	93	22.09	198	23.51
著明	155	36.82	182	43.23	337	40.03
不鮮明	39	9.26	39	9.26	78	9.26
缺如	421		421		842	
計						

予ノ北陸地方頭蓋ニ於ケル成績ハ第三十表ニ表示セルガ如ク兩側共ニ該動脈溝ノ不鮮明ナルモノ最モ多ク總數ノ四〇・〇三%ヲ占メ、著明ナルモノハ二七・二〇%ナリ。而シテ中等度著明ナルモノハ比較的尠ク二三・五一%ニシテ全然該溝ヲ缺如セルモノハ九・二六%ニ於テ認メタリ。

之レガ左右、男女ノ關係ハ男女關係ニ於テハ右側ハ該溝

ノ著明ニ表ハレタルモノハ男性ニ多ク、女性ニアリテハ不鮮明ナルモノ多ク一般ニ著明ヲ缺クヲ見ル。（第三十一表參照）

第三十一表　後頭動脈溝ノ發育程度（右側）

類別＼性別	♂ n	♂ %	♀ n	♀ %
著明	88	34.92	34	20.12
中等度著明	57	22.62	48	28.40
不鮮明	87	34.52	68	40.24
計	232		150	

第三十二表　後頭動脈溝ノ發育程度（左側）

類別＼性別	♂ n	♂ %	♀ n	♀ %
著明	75	29.76	32	18.93
中等度著明	52	20.63	41	24.26
不鮮明	106	42.06	76	44.97
計	233		149	

左側ニ於テモ殆ンド右側ニ同樣ニシテ特記スベキ差異ヲ認メザレドモ右左ヲ比較スルトキハ右側ハ一般ニ著明ナルモノ多ク左側ハ然ラザルヲ見ル。殊ニ男性ニ於テ甚ダシ。（第三十二表參照）

該溝ヲ全然缺如セルモノ、左右並ニ男女ノ關係ハ第三十三表ノ如ク女性ハ男性ニ比シ稍多ク比較的顯著ナル差異アルヲ見ルモ（三・三七％）、左右ノ關係ニ於テハ予ハ全ク同樣ナル結果ヲ得タリ。

第三十三表　後頭動脈溝ヲ缺如スルモノノ左右並ニ男女ノ關係

側別＼性別	♂ n	♂ %	♀ n	♀ %	♂+♀ n	♂+♀ %
R	20	7.93	19	11.24	39	9.26
L	19	7.54	20	11.83	39	9.26
R+L	39	7.77	39	11.54	78	9.26

約言セバ後頭動脈溝ノ全然缺如スルモノ、及ビ不鮮明ナルモノハ女性ニ多ク男性ニ於テハ一般ニ著明ナリ。

予ノ計測セル（a-a′），（b-b′），（c-c′）ノ距離ハ夫々平均五・二mm（一・四―一三・一mm）、四・八mm（一一・―一一・三mm）、五・一mm（一・八―一〇・〇mm）ニシテ該動脈溝ハ殆ンド乳嘴突起後面ニ竝行シ而モ相接近シテ走行スルヲ認ム。此レガ左右ニ於

ケル關係ハ第三十四表ノ如ク左右間ニ差異ナク、男女間ノ關係ハ右側男性ノ(a-a′), (b-b′), (c-c′)ノ距離ハ夫々五·二mm(一·五—一一·五mm)、四·五mm(一·七—一〇·〇mm)、五·三mm(一·九—一〇·〇mm)ニシテ女性ニ於テハ夫々四·八mm(二·四—一〇·五mm)、五·五mm(一·三—八·七mm)、四·八mm(一·八—九·二mm)ナリ、即チ女性ハ乳嘴突起後面中央部ニ於テ男性ニ比シ甚ダシク離隔セル距離ニ存スルモ他ノ部ニ於テハ稍接近ス。左側男性ノ(a-a′), (b-b′), (c-c′)ノ距離ハ夫々五·一mm(一·四—一三·一mm)、四·五mm(一·四—九·七mm)、五·〇mm(一·八—八·三mm)ニシテ女性ニ於テハ夫々五·五mm(二·六—一〇·九mm)、四·五mm(一·四—一一·三mm)、五·二mm(二·一—九·〇mm)ニシテ全ク右側ニ反シ乳嘴突起後面中央部ヨリノ距離ハ全ク相等シキモ他ノ部ニ於テハ男性ハ女性ニ比シ稍接近スルヲ見ル。

第三十四表　乳嘴突起後縁ヨリ後頭動脈溝ニ至ル平均距離

側別＼類別	R (mm)	L (mm)	R+L (mm)
a-a′	5.0	5.3	5.2
b-b′	5.0	4.5	4.8
c-c′	5.1	5.1	5.1

次ニ予ノ分類セル各類別間ノ關係ハ第V類ニ屬スルモノ最モ多ク三〇·〇五%(二五三例)ニシテ以下第II類二一·〇二%(一七七例)、第III類一九·九八%(一六九例)ノ順ニ遞減シ第IV類及ビ第VI類ハ各々一·五四%(一三例)、一·四三%(一二例)ニ過ギズ。

而シテ此等各類ニ於ケル各型ノ左右並ニ男女ノ關係ハ第三十五表ニ示スガ如ク第I類ハ右側ニ多クシテ第I、第II兩型ハ男性ニ第III型ハ女性ニ多シ。

第II類モ亦同樣右側ニ多キモ第II、第III兩型ハ女性ニ第I型ハ殆ンド同樣ナルカ或ハ男性ニ多シ。

第III類ハ左側ニ甚ダ多クシテ右側ニ在リテハ第I、第II兩型ハ男性ニ第III型ノミ女性ニ多ク、左側ハ第I、第III型ハ男性ニ第II型ハ女性ニ多キヲ見ル。

第IV類ハ兩側共ニ第I型ヲ缺キ左側ハ第II型ヲモ缺如スルモ一般ニ男性ニ於テ甚ダ多ク殊ニ右側ニ甚ダシ。

第V類ハ各類中最モ多キモ第I型ハ兩側共ニ男性ニ稍多ク第II型ハ女性ニ多シ、而シテ第III型ハ右側ニ於テハ女性

第三十五表　後頭動脈溝各類並ニ各型ノ左右ノ男女比較

類別	側別 / 型別 / 性別	R I n	R I %	R II n	R II %	R III n	R III %	L I n	L I %	L II n	L II %	L III n	L III %	
I	♂	37	14.7	13	5.2	5	2.0	26	10.3	10	4.0	7	2.8	
	♀	9	5.3	6	3.6	7	4.1	12	7.1	2	1.2	8	4.7	
	♂+♀	46		19		12		38		12		15		142
II	♂	18	7.1	10	4.0	22	8.7	14	5.6	14	5.6	21	8.3	
	♀	12	7.1	17	10.1	15	8.9	6	3.6	12	7.1	16	9.5	
	♂+♀	30		27		37		20		26		37		177
III	♂	17	6.7	16	6.4	13	5.2	22	8.7	14	5.6	27	10.7	
	♀	4	2.4	8	4.7	11	6.5	8	4.7	15	8.9	12	7.1	
	♂+♀	21		24		24		30		29		39		167
IV	♂	—	—	2	0.8	7	2.8	—	—	—	—	2	0.8	
	♀	—	—	—	—	1	0.6	—	—	—	—	1	0.6	
	♂+♀	—		2		8		—		—		3		13
V	♂	17	6.7	15	6.0	36	14.3	12	4.8	13	5.2	47	28.7	
	♀	10	5.9	15	8.9	33	19.5	7	4.1	13	7.7	35	20.7	
	♂+♀	27		30		69		19		26		82		253
VI	♂	1	0.4	1	0.4	2	0.8	—	—	—	—	4	1.6	
	♀	—	—	—	—	2	1.2	—	—	—	—	2	1.2	
	♂+♀	1		1		4		—		—		6		12

ニ多キヲ見ルモ左側ハ之レニ反シ男性ニ甚ダ多キヲ見ル。

第IV類ハ各類中最モ小數ニシテ女性ニ於テハ兩側共ニ第I、第II兩型ヲ缺キ男性左側又之レヲ缺クモ第III型ハ右側ハ女性ニ左側ハ男性ニ稍多キガ如シ。

即チ之レヲ要スルニ後頭動脈溝ハ乳嘴突起後面ヨリ約〇・五cmノ距離ニ於テ殆ンド該面ニ竝行シテ存シ該突起後面中央部ニ於テ著明ニ表ハレタルモノ最モ多キヲ見ル。而シテ男性ニ於テハ該溝ノ著明

ニ表ハレタルモノ多ク女性ニ於テハ不鮮明ナルモノ多ク其ノ差異右側ニ於テ殊ニ甚ダシ。

該溝ヲ缺如スルモノハ全ク左右的ニハ些ノ差異ヲ認メザルモ男女ノ關係ニ於テハ女性ニ甚ダシク男女性的差異顯著ナリ。

第三章　總括

以上北陸地方邦人頭蓋ニツキ乳嘴孔及後頭動脈溝ノ形態ヲ觀察セシ所ヲ總括スルニ次ノ如シ。

一、乳嘴孔ノ數ハ一—四個ノ間ニ在リ兩側共ニ各一個ヲ有スルモノ最モ多ク全然缺如スルモノハ邦人ニ於テハ一般ニ歐洲人ニ比シ多キガ如シ。而シテ之レガ左右ノ關係ハ左側ニ屢々實見スルモ岡田氏ノ記載ノ如ク其ノ大部ノ左側ニ存スルモノナルコトハ信ジ難シ。

二、乳嘴孔ノ大サハ粟粒大以下ノモノ最モ多ク總數ノ六九·九%ヲ占ムルモ時ニ直徑一cmニ達スル巨大孔ヲ見ルコトアリ。該孔ノ比較的大ナルモノハ右左側間ニ於テ殆ンド差異ナキモ顯著ナル大孔ハ左側ニ甚ダ多數ニシテ男性ハ一般ニ大孔ヲ有スルモノ多ク、女性ハ小孔ヲ有スル場合多キヲ見タリ。

三、乳嘴孔外口ノ後頭乳嘴縫合トノ關係ハ該縫合上ニ存スルモノ最モ多ク Bezoldガ言ヘルガ如ク該孔ハ普通後頭乳嘴縫合上ニ存スト稱スルモ誤リナキガ如シ。然レドモ女性ハ男性ニ比シ該縫合ヨリ離隔セル距離ニ存スルモノ多ク、殊ニ後頭骨上ニ存スルモノ多キヲ知ル。而シテ乳嘴孔外口ノ後頭乳嘴縫合トノ關係ハ殆ンド歐洲人ニ等シキモ九州地方邦人並ニ支那人ニ比シ該縫合上ニ存スルモノ甚ダ多ク殊ニ支那人トノ差異甚ダ顯著ナリ。

四、乳嘴孔外口ノ位置ハ Ectoconchion-inion Linie ニ對シ恰適スルモノト認ムベキモノ即チ該線ノ上下〇·五cm以内ヲ生體ニ於ケル憶測ノ範圍内ト認メ全ク恰當スルモノト合スルモ四〇·三五%ニシテ爾餘（五九·六五%）ハ該線ノ上下〇·五cm以上ノ距離ニ存スルヲ認メタリ。而シテ女性ハ男性ニ比シ上方ニ存スルモノ多ク、下方ニ存スルモノハ男性ニ

多クシテ殊ニ左側ニ甚ダシ。人種解剖學上北陸地方邦人ノ該關係ハ東京地方邦人ニ比シ顯著ナル差異ヲ認ムルコトナシト雖モ一般ニ該線ノ下方ニ存スルモノ多ク、上方ニ存スルモノ尠シ。歐洲人ニ比スルトキハ一般邦人ノ乳嘴孔外口ノ位置ハ該線ノ下方ニ存スルモノ甚ダシク人種的差異顯著ナリ。

五、外聽孔後壁中央部及ビ乳嘴突起尖端ヨリ乳嘴孔外口ニ至ル距離ハ成人頭蓋ニ於テハ約三cmニシテ外聽孔後壁中央部ヨリ乳嘴突起尖端ニ至ル距離ハ約二・五cmナルヲ以テ、乳嘴孔外口ノ位置ハ約三cmヲ二邊トシ約二・五cmヲ底邊ノ長サトスル二等邊三角形ノ頂點ニ存スルモノト思考シ得ベク、Oertel, 犬丸氏等ノ如ク外聽孔後壁ヨリ約二横指ノ距離ニ存スルモノトスルモ誤リナカルベシ。小兒頭蓋ニ於テハ約二・六五cmヲ二邊トシ約一・九cmヲ底邊ノ長サトスル二等邊三角形ノ頂點ニ存スルモノト思考スルヲ得ベシ。

六、臨床上腦膿瘍或ハ乳嘴突起後部軟部切開手術ヲ行フ場合ハ Ectoconchion-Inion Linie ノ上方約二cm、下方約三cmヲ隔テ外聽孔上緣ヨリ約三・九cm（小兒三・五cm）、外聽孔後壁中央部及ビ乳嘴突起尖端ヨリ約三cm（小兒二・六五cm）ニシテ乳嘴截痕最終端ヲ中心トシ約一・〇cmヲ半徑トシテ畫キタル圓ノ後上1/4圓ニ相等スル部ヲ除クトキハ殆ンド吻合靜脈損傷ノ危險ヨリ脫スルヲ得ベシ。

七、後頭動脈溝ノ全然缺如スルモノハ女性ニ多ク存スルモ左右的關係ハ全ク同樣ニシテ些ノ差異アルヲ認メズ。然レドモ一般ニ男性ニ於テハ著明ニシテ女性ニ於テハ不鮮明ナルモノ多シ。

該動脈溝ノ乳嘴突起後面ヨリノ距離ハ約〇・五cmニシテ略該面ニ竝行ニ走行スルヲ認メ、男女性間ニ於テハ之レガ顯著ナル差異ハ認メ難シ。

稿ヲ終ルニ臨ミ終始懇切ナル御指導ト御校閲ノ勞ヲ賜ハリタル岡本教授ニ對シ深甚ナル感謝ノ意ヲ表ス。

Literatur:

1) **Bezold, F.** Die Perforation des Warzenfortsatzes vom anatomischen Standpunkte. Monatschr. f. Ohrenheilk. Jahrgang 8, 1873-1874. 2) **Bergmann,** Die chirurgische Behandlung von Hirnkrankheiten. Arbeiten aus Chirurg. Klinik, Berlin 1889. 3) **Chealte, A. H.** The mastoid emissary vein and its surgical importance. The Journal of Laryngolgy and Otology. Vol. 15 No. 10 1925. 4) **Corning,** Lehrbuch der topographische Anatomie. 3. Aufl. 1914. 5) **Le Double,** Trait des Variation des Os du Crane de l'Homme. 1901. (Zit. von Kanasugi) 6) **Gegenbaur,** Lehrbuch der Anatomie des Menschen. 1888. 7) **Henle,** Handbuch der systematischen Anatomie des Menschen. 3. Aufl. Bd. 1. 1873. 8) **平井隆、**樺太アイヌ人人骨ノ研究、第一部頭蓋骨ノ研究、人類學雜誌、第24卷附錄。 9) **Inumaru, H.** Ueber das Foramen mastoideum. Folia Anatomica Japonica. Bd. 3. Heft. 4/5 1925. 10) **菊地、**本邦人顳顬骨ノ耳科外科的解剖、大日本耳鼻咽喉科會報、第13卷、第4/5號。 11) **Kanasugi, E.** Topographische chirurgische Anatomie der Pars Mastoidea. 1908. 12) **Laidlow,** Some peculiar Features in a Temporal Bone. Journ. Anat. and Physiol. N. S., Vol. 17 1903. 13) **森川、**顳顬骨ノ外科的解剖學補遺(一)、京都耳鼻咽喉科臨床、第19卷、第3號。 14) **Meckel,** Henlesche Grundriss der Anatomie des Menschen. 4. Aufl. 1901. 15) **Meyer, H. W.** An abnormally large unilateral Foramen mastoideum. Canalis mastoideus and Sulucus emissarius. Journ. Anat. and Physiol. Vol. 48 Third series Vol 9 second part 1914. 16) **Oertel, O.** Leitfaden der topographischen Anatomie und ihrer Anwendung. 1922. (Zit. von Inumaru) 17) **Okada, Y.** Zur oto-chirurgischen Anatomie des Schlaefenbeins. Archiv f. Klinische Chirurg. Bd. 58 Heft 4 1899. 18) **Ruedinger,** Die Fossa jugularis und ihre individuelle Grössenverschiedenheit. Monatschr. f. Ohrenheilk. 1875. Nr. 1 19) **Rauber-Kopfsch,** Lehrbuch und Atlas der Anatomie des Menschen. 12. Aufl. 1922. 20) **Schültze, O.** Atlas und Kurzgefasstes Lehrbuch der topographischen und angewandten Anatomie. 3. Aufl. 1922. 21) **Stratz, C. H.** Lebensalter und Geschlechter. 1926. 22) **Trautmann,** Die chirurgische Anatomie des Schlaefenbeins. Berlin. 1898 (Zit. von Okada) 23) **Zuckerkandl, E.** Zweite Beitraege zur Anatomie des Schlaefenbeins. Monatschr. f. Ohrenheilk. 1873. Nr. 7

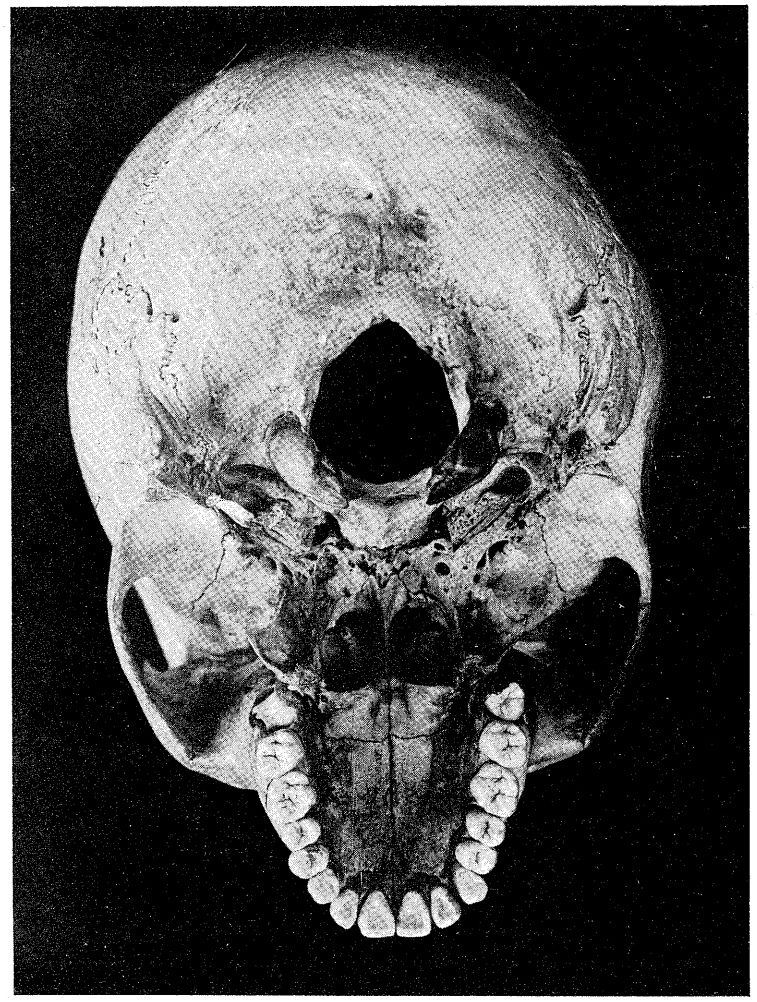
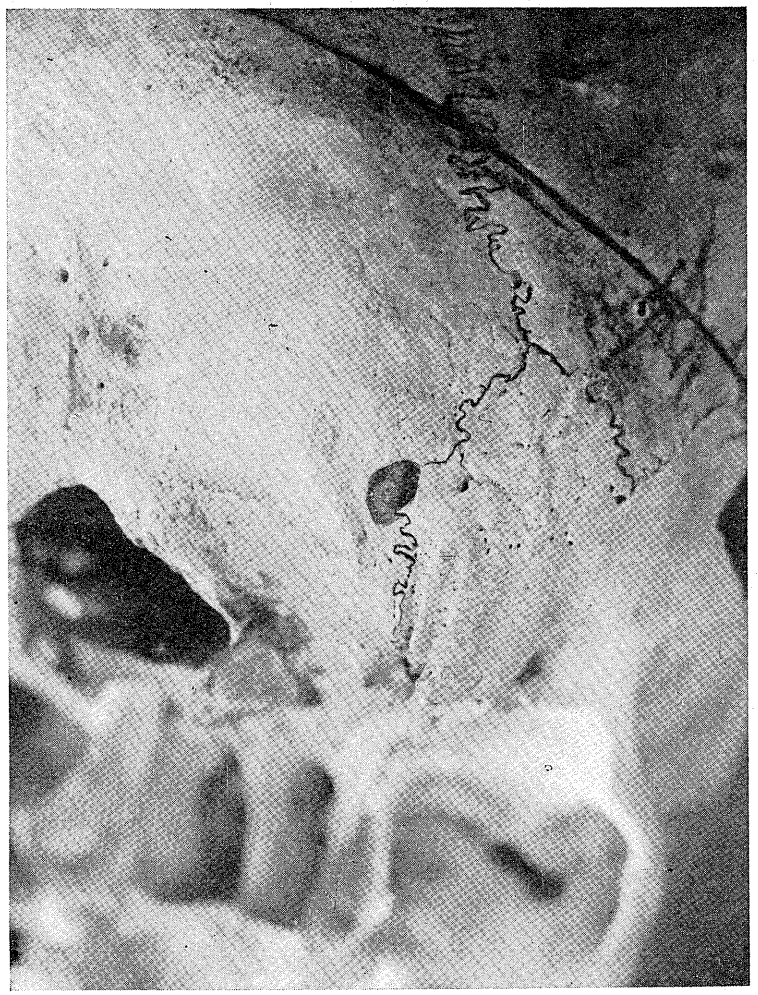
附圖說明

第一圖　巨大ナル乳嘴孔外口ヲ示ス。(標本番號五一七、一七歳、男性、右側)

第二圖　乳嘴孔外口ノ存スル部ヲ特ニ明示セリ。

(寫眞撮影ニハ山田越二氏ヲ煩ハセリ、茲ニ感謝ノ意ヲ表ス。)

第一圖



第二圖